

2011年09月25日

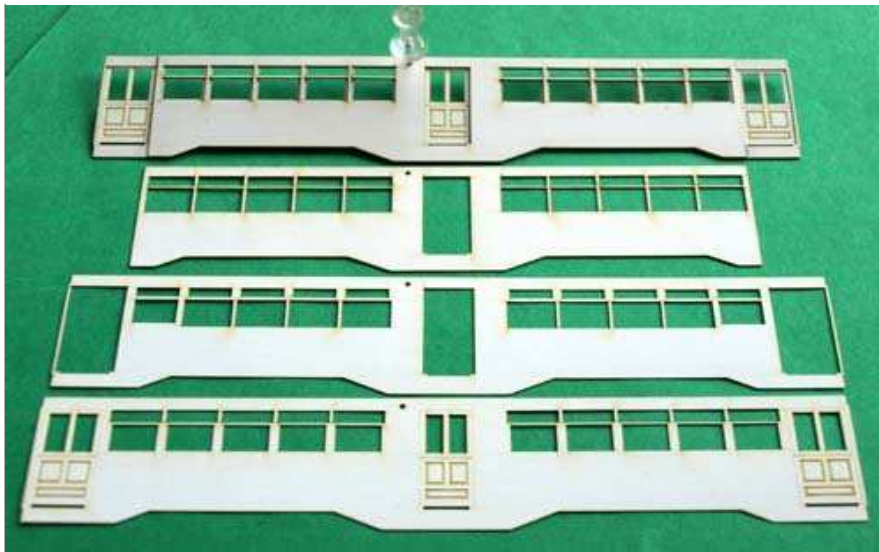
京急140新発売のご案内

Edited by Foxit Reader
Copyright(C) by Foxit Software Company,2005-2007
For Evaluation Only.

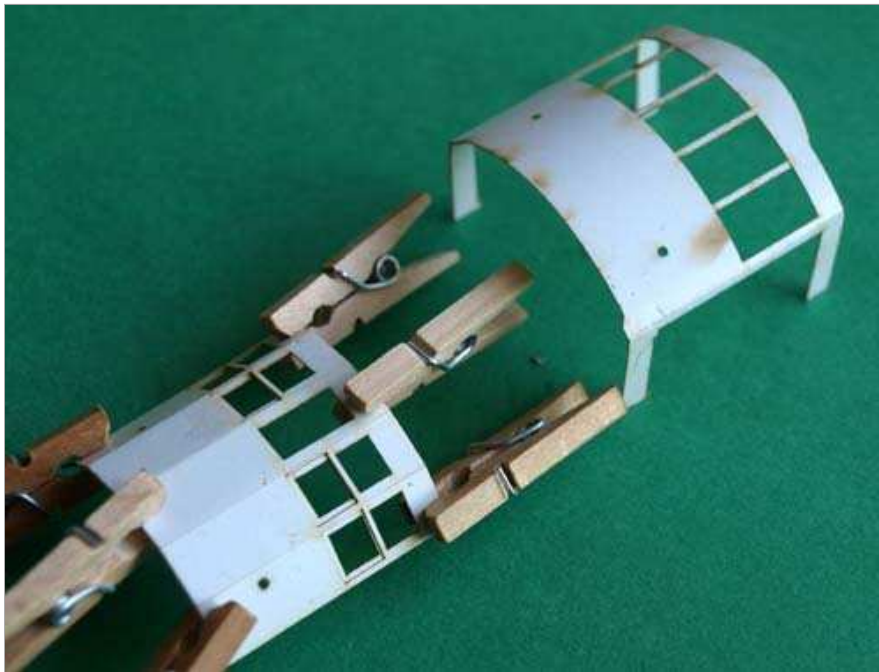
お問い合わせ



大正末期～昭和初期の鋼製車両の特徴の一つとして、車体に飾り枠が施されています。結果、車体は、4枚構成となりました。飾り枠も、のぞみ工房製品の特徴として、アジャストピンを活用して、一発で貼り付けられるよう工夫してあります。お試しください。細い枠もシナ-貼りで比較的簡単に取り付けられます。



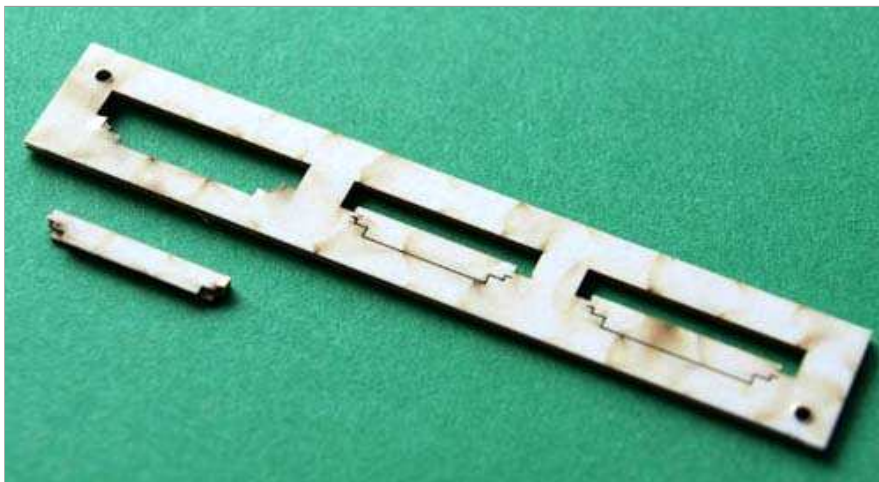
のぞみ工房製品の特徴である、アジャストピンによる貼り合わせ、上記の通りこの京急140にも採用しました。飾り枠は、車体が組み上がってから貼り付けます。



先頭部の外板は、曲げたものを入れております。内張り、内補強はピンセットで折り曲げ、2枚をタマセメントで5面体に貼り合わせておきます。それから5面体の内張りと外板を貼り合わせると、実感的な正面が形成されます。



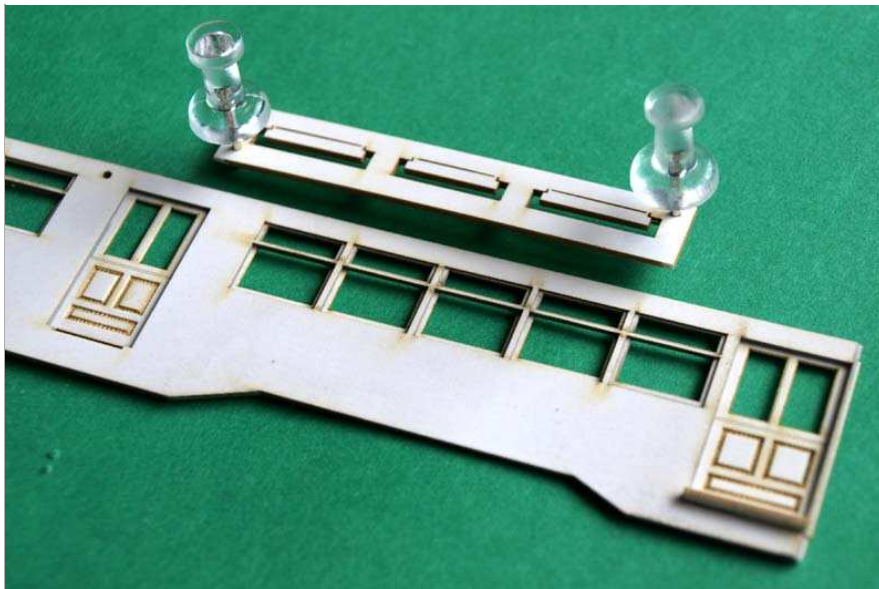
先頭部の特徴ある屋根カーブは積層屋根構造で表現し易くなっております。お試しください。天井板構造も、この写真から、補助材(2×3の松棒)を貼る位置をよくご理解頂けるものと思います。



特徴あるステップはしっかりした構造で差し込む様になりました。7の写真も合わせてご覧ください。



実感的なアンチクライマーもペーパーで簡単に作れます。タミヤセメントと水溶性のボンドを薄めたものを、うまく使い分けましょう。



ドア側に切り込みを入れて差し込む構造としました。裏側から接着剤を流し込むと、しっかりとまります。



飾り枠は、車体完成後、サーフェイサーを吹き付けた後、アジャストピンを活用して定位置に置き、シンナーを軽く流し込むとキチンと貼り付ける事ができます。想像するより簡単です。お試しください。



のぞみ工房ブランドで短期間にベストセラーとなった京急230です。今回の京急140を挟んで昭和の良き時代を3連でお楽しみ下さい。



このモデルは、南海21001系・一畑電鉄3000系・大井川鉄道21001系にも対応しております。一畑電鉄・大井川鉄道をご希望の方は、南海21001系をお求め下さい。詳しくは、「鉄道模型趣味」「RM MODELS」「とれいん」の、1月21日発売号をご覧ください。



南海21201系中間車の21801です。ファンの皆様のご関心は、今も活躍している、一畑電鉄・大井川鉄道にあるものと考えます。南海ファンの皆様に、21801のキットの存在もアピールさせていただきます。



驚きの衣替えでした。でも、実際に組んでみると可愛い2両編成に纏まりました。先頭部を組み立て済ですので、普通のモデルと同じ感覚で作ることが出来ます。ぜひとも楽しみ下さい。屋上ルームクーラー、15連の抵抗器を含む床下機器も同梱しております。今回の先頭部は、発売済流線型9車種のなかでも、組立に最も時間

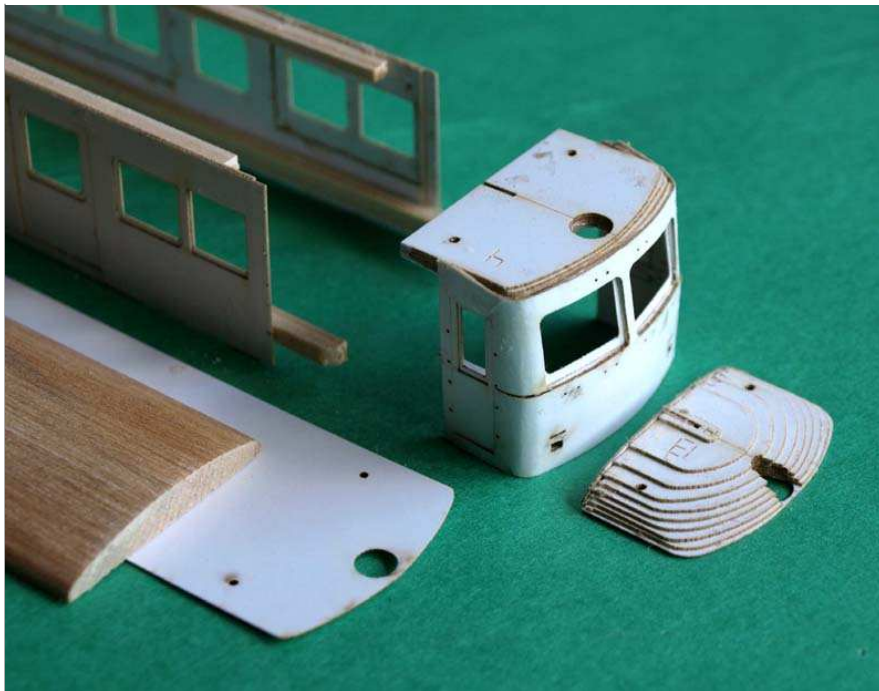
を要しております。独特の正面2枚窓上辺の凹みの表現に苦勞しました。模型店様で、キットを手にとりてご確認いただければ幸いです。



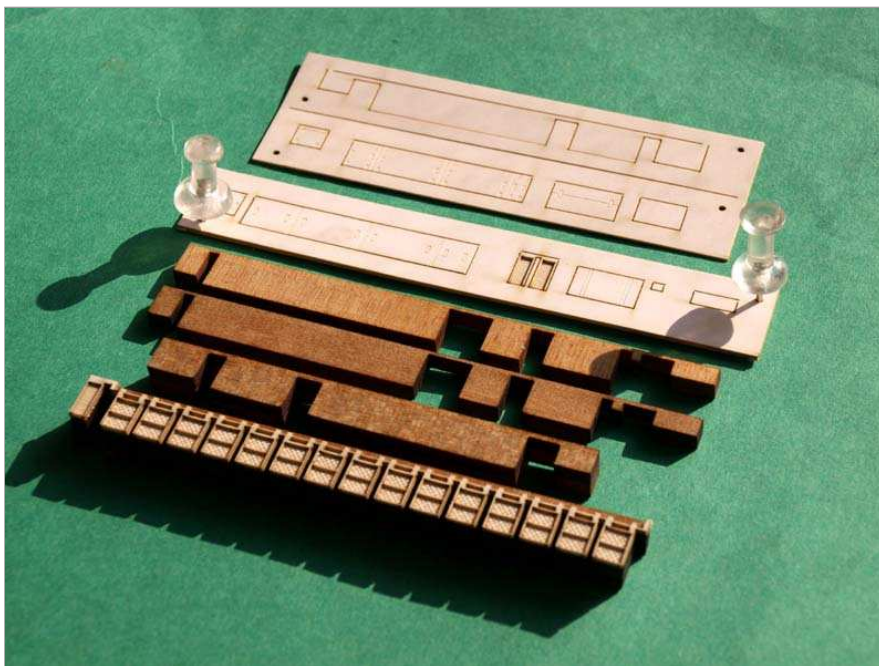
このモデルの正面の特徴は、正面2枚窓の下辺が突き出ている、平面ガラスの2枚窓。しかも窓ガラス上辺が外板より凹んでおります。ご安心下さい。正面先頭部は、組立済のものを同梱しております。天井板を落とし込み、積層屋根構造になっておりますので、何方でもきれいな線を描く先頭部を組立てることが出来ます。お試しください。のぞみ工場のキットは全て単体販売となっております。



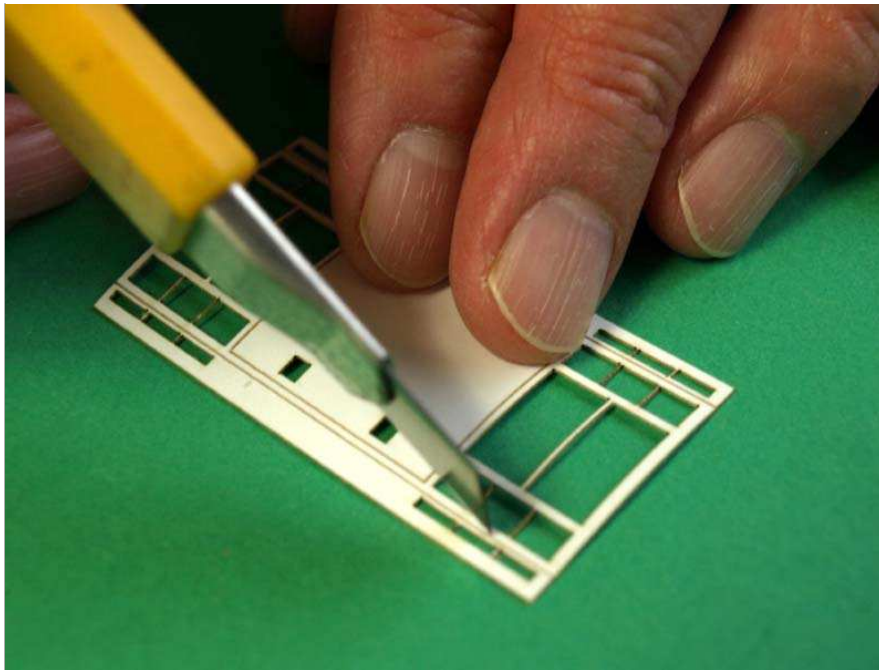
大井川鉄道では、南海時代のままの姿を楽しむ事ができる嬉しい存在です。テールライト等もスケールオーバーにならないように神経を使いました。屋根板ものぞみ工場製のAタイプを同梱しておりますので、肩を少し落として頂くだけで、簡単に仕上げる事が出来ます。のぞみ工場のほぼ全てのキットに「ほぼピッタリ屋根」を同梱しております。「ほぼピッタリ屋根」A～Eタイプについては新製品の欄をご覧ください。



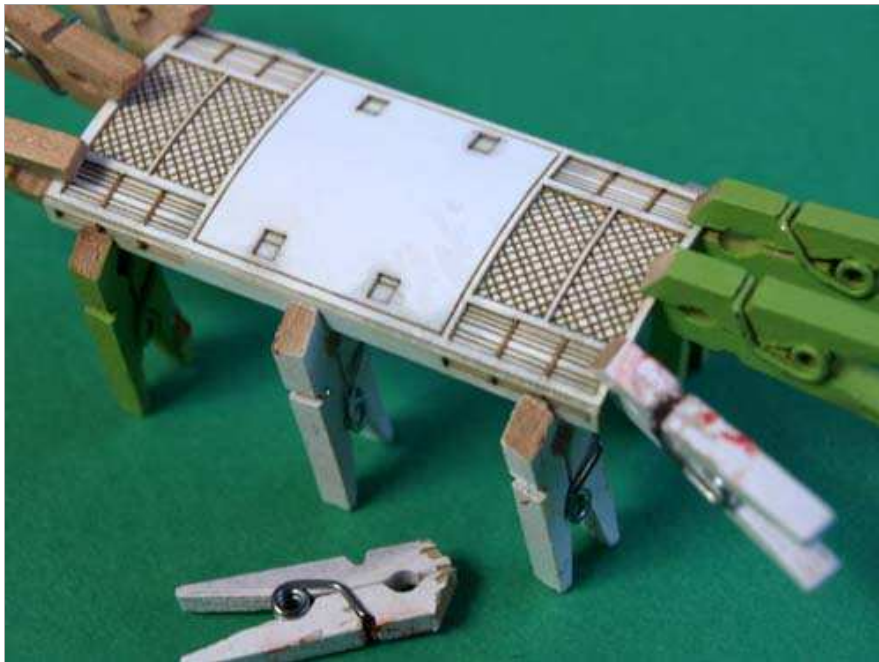
既発売の流線型車両と同じく先頭部は組立済です。組立済先頭部に、屋根の一部を積層することによって、よりやさしくカーブを表現できるように工夫しました。ヘッドライトもスライクモデルのC-1643を使うと点灯式化が簡単に出来ます。LEDはのぞみ工房のEタイプがピッタリです。ヘッドライト取り付け位置も積層屋根に配慮されています。



床下機器も写真のようなものを同梱しました。15連の抵抗器も簡単に組立てられます。V-V部分の重ね合わせには、アジャスピンを活用しておりますので正確に貼り付けることが出来ます。V-V-同士の接着には、タミヤセメントが、木部との接着には、木工ボンドが良いでしょう。



レーザーカッターは万能ではありません。デジタル機器ですから細かく見れば点の連続です。従って細かい点は、万能の人間の手で補ってやる必要があります。具体的には、新しく折ったカッターの刃先で軽く線に沿って撫でてやれば良いのです。結果写真のような細い部分でもきれいに折り曲げることが出来ます。軽く撫で返すのが良いでしょう。



屋上クーラーの組立にはマイクロクリップの先端を写真の様に尖らせて使うと大変便利です。このマイクロクリップは100円ショップキャンドウで販売されております。尋ねた店になかったら親切に取り寄せてくれました。袋には大宅産業(株)と書いてありました。^_^車体の組立には超便利な工具の一つです。



アルミサッシの窓枠の細さにも留意してキット化しました。日本鉄道模型ショーに参考出展致します。



特徴あるバンパーも、ペーパーで、レーザーカッターと、アジャストピンと接着剤の選択と工夫で丈夫なものを作ることが、出来ました。



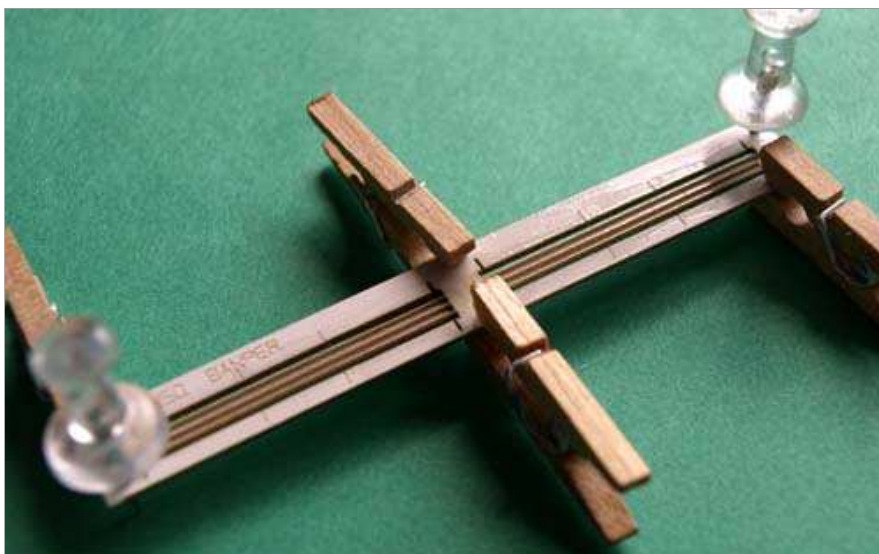
ご希望の多くありました車体更新前の2色塗りわけ時代のタイプも続いて発売予定です。模型店にて、ご予約承ります。



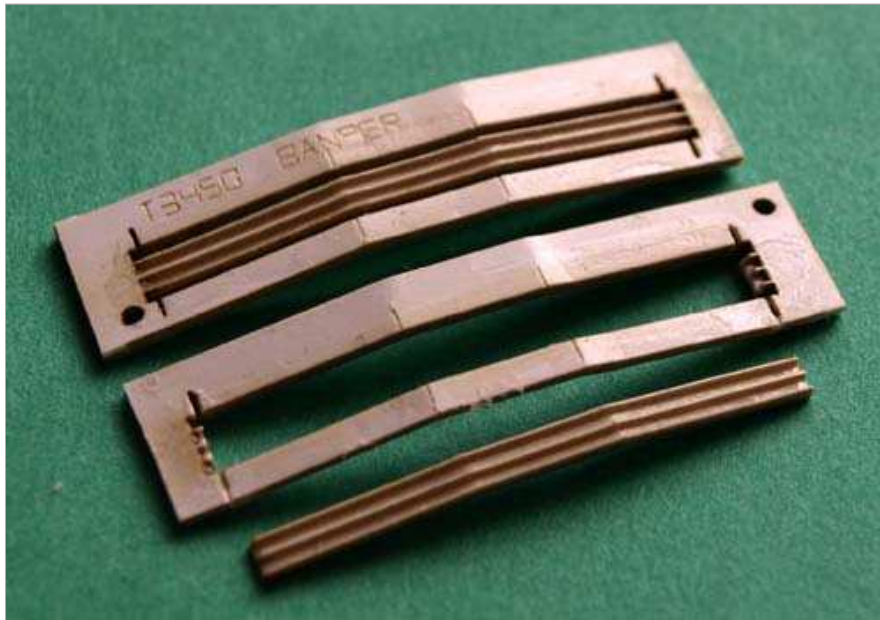
日車タイプの深い屋根の先頭部も、のぞみ工房得意の積層屋根方式で、簡単に表現することが出来ます。スライクモデルの点灯式ヘッドライトC-1460がセンターに簡単に取り付けられる様に、斜めに穴を開けてあります。スライクモデルの点灯式ヘッドライトは、のぞみ工房でも取り扱って降ります。



東急3450につきましては、最後まで両運で残った3498・3499につきましても多くの関心を寄せられています。いずれは開発したいと考えております。



同梱の2枚のバンパー用のパーツをアジャストピンで重ねます。この溝に先ずタヤセメントをタプリーなしこみます。タヤセメントで硬化は出来ませんが粘りが無いためバラバラになりやすい。これを助けてくれるのが木工ボンドです。木工ボンドを水で3倍ぐらいに薄め同じく流し込みます。何れも接着剤の逃げ道を充分に取ってあるのが特徴です。



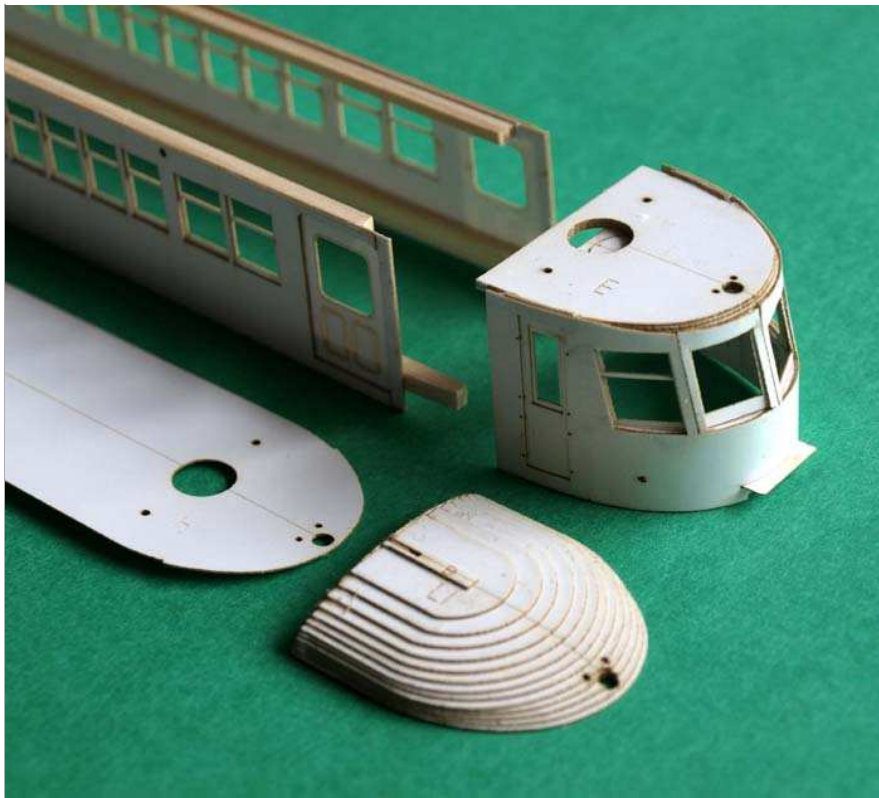
バンパーを充分乾燥させた後、ペンチ等刃先の拾い工具で、ガイド毎三つ折にします。形を整えてから切り抜くのがポイントです。



旧国電ケムル52を発売した際、「狭窓はいつだすんや」とのお声を、沢山のファンの皆様から頂きました。それらの皆様のお声にお応えして、ケムル52狭窓を新発売致します。同時にご希望を多く寄せられていたケムル56も新発売致します。詳しくは2010年9月21日発売の「鉄道模型趣味」「RM MODELS」「とれいん」の各誌にも紹介されていますので、併せてご覧頂ければ幸いです。



構造的には、このタイプは雨樋が付きましたので、木製屋根としました。今回新発売しました「ほぼピッタリ屋根」シリーズ5種の中でも旧国用のCタイプは、仕上げ用の加工を除いて、そのままお使い頂けるようピッタリサイズになっております。スライモデルのC-1640の点灯式ヘッドライト(のぞみ工房取扱)を取り付けるための穴を、組立て済先頭部を開けてありますので点灯式化も簡単です。お試し下さい。点灯式化には、のぞみ工房特製のLED点灯モジュールタイプ片運をご用意しております。



キットには、写真のような「組立て済先頭部」が同梱されておりますので、普通の車両と同じ要領で組立てることが出来ます。先頭部は、手作り加工で進めており、正面窓下の三日月型のスペースも確保されております。ご確認下さい。



ヘッドライトはスパイクモデルのC-1640(LP402E)です。キットと一緒にお申込下さい。のぞみ工房のLED点灯モジュールタイプ片運の品番は701201です。

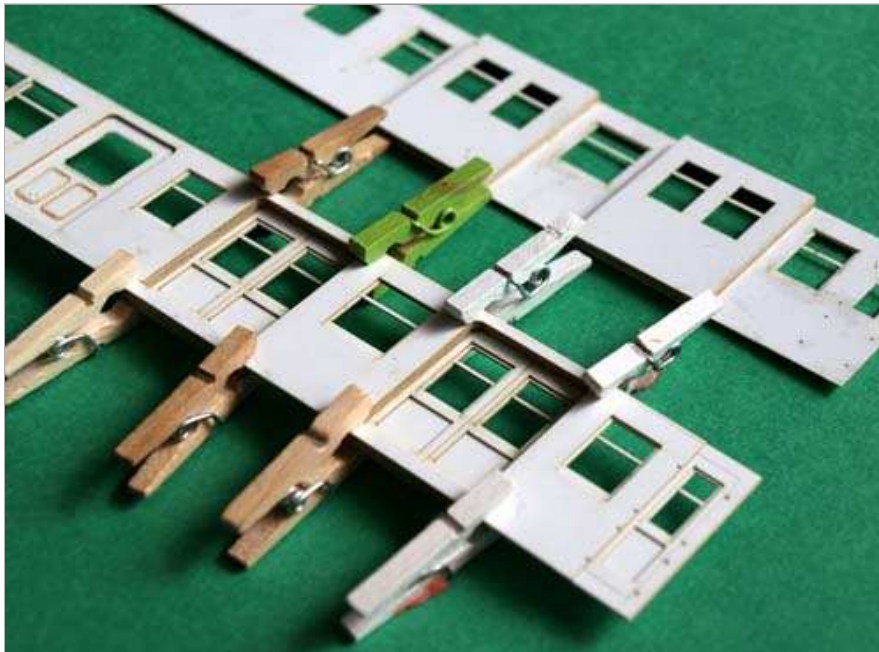


カハ1156と同じく、連結面は、「ハードキーロックコーナー方式」を取っております。正確にしっかり接合できます。のぞみ工房では、試作品を必ず作りますので、組立て易いように更なる改良を進めて行きたいと考えております。ご支援の程よろしく願い申し上げます。以下カハ1156と共通部分が多いので省略致します。併せてご覧下さい。

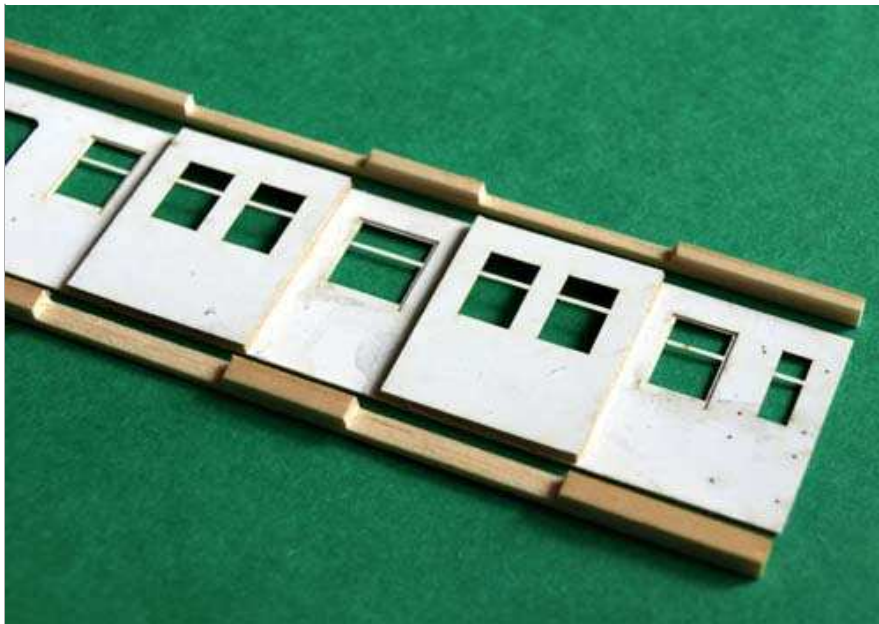
飯田線関連の増強でご希望の多かったK1ニ56を新発売致します。荷物室扉の凹み具合も、それらしく表現しました。詳しくは2010年9月21日発売の「鉄道模型趣味」[RM MODELS]「とれいん」の各誌に掲載されております。併せてご覧頂ければ幸いです。



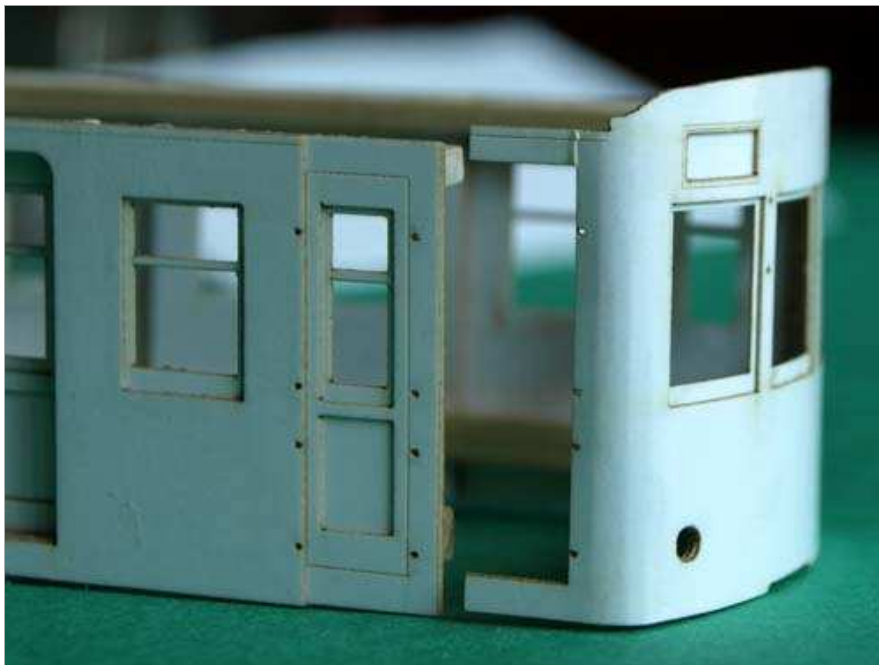
構造的には、のぞみ工房の特徴である先頭部積層屋根、組立て易い天井板方式、連続ヘッダー、貼り付け済2段雨樋等、組立て易さを踏襲しております。



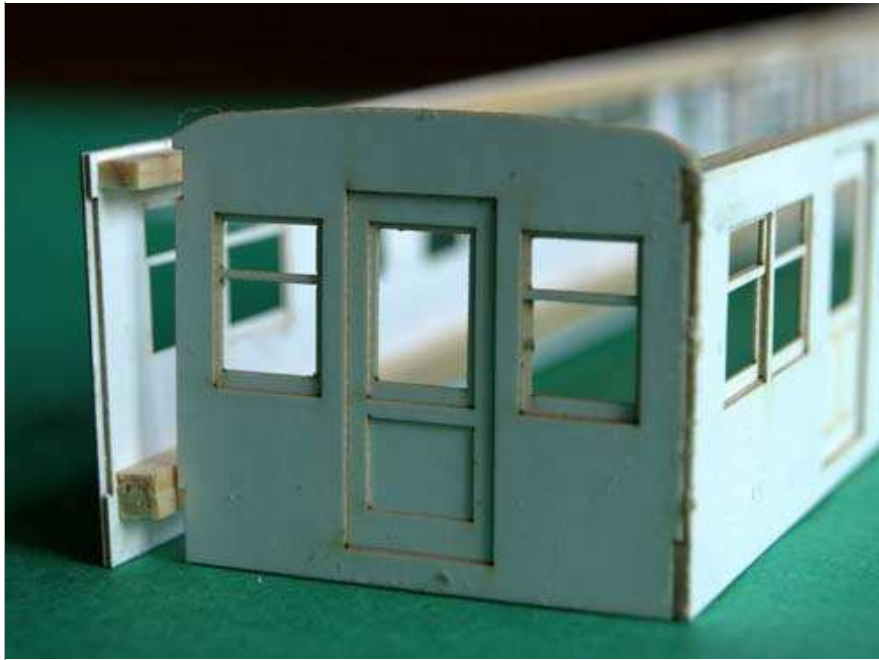
荷物ドアの凹みを表現する枠に、タヤセメントをタブリ塗って、ミニクリップで挟んで行きます。はみ出したタヤセメントは、シンナー、アセトンで拭い去っておきましょう。



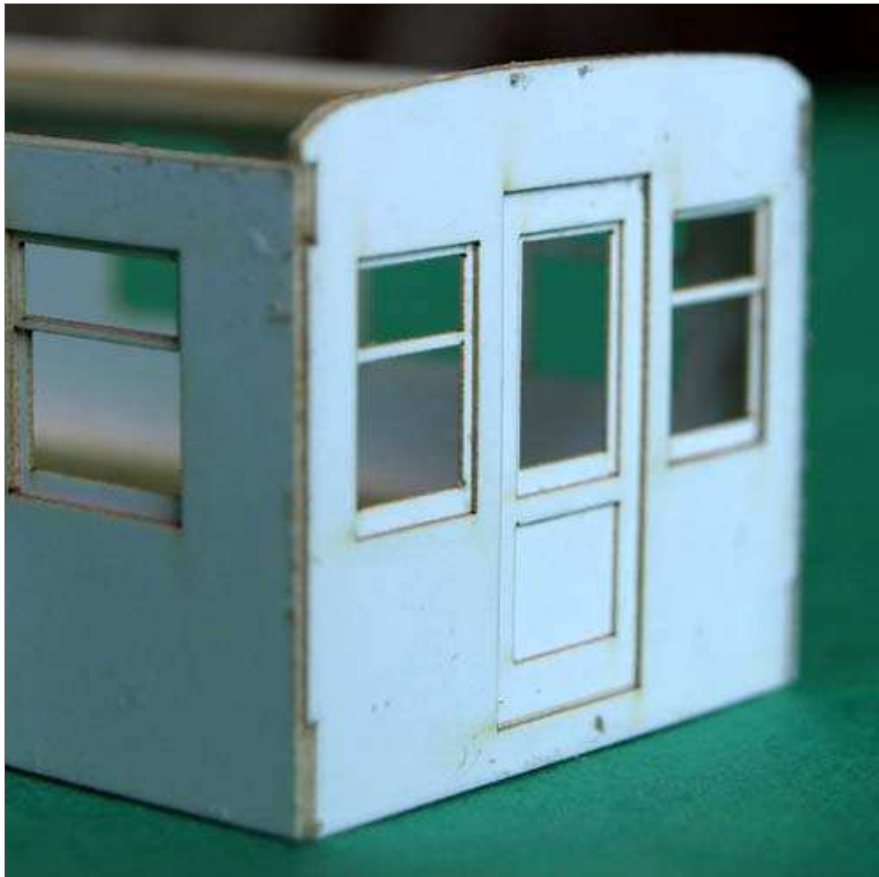
側板を裏返すと荷物室ドアの凹み具合がよくわかります。ドアのあたる部分の補助角材は写真の様に、欠きとっておきましょう。上部角材(2×3)は、側板の上辺より0.5ミリ下げて貼るのが、組立て易い天井板方式のポイントです。全のぞみ工房組立てキットに共通です。



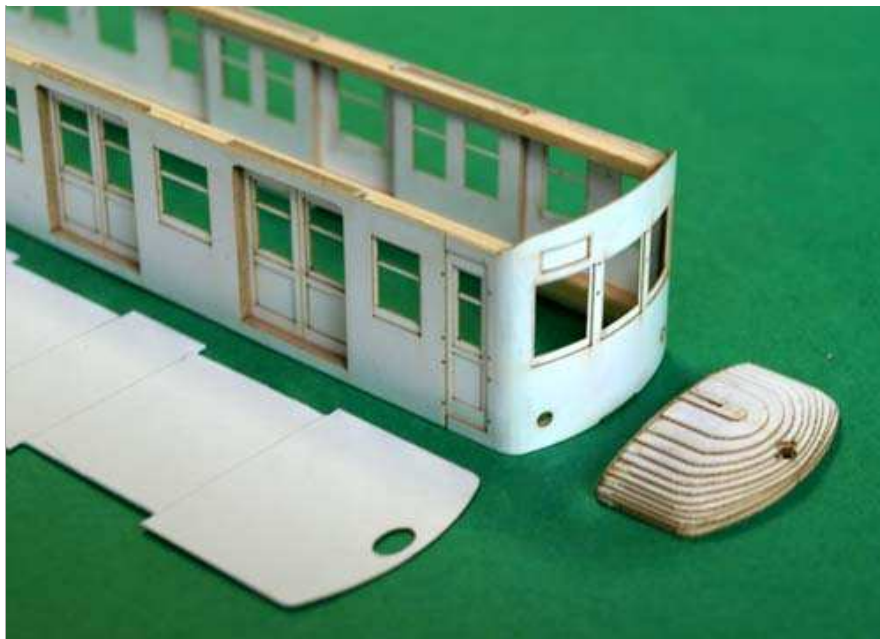
先頭部は、写真の様に組立てます。テスリ用の穴開け具合がよくわかります。



のぞみ工房新開発の「ハードキーロックコーナー方式」です。側面からは、妻板の断面が見えず、しかも側板と妻板がからみ合って接合出来ますので、妻板が傾斜する心配もなく強固な接合をご体感いただけるものと考えております。今後開発されるのぞみ工房のキットは一部を除きこの方式を取りたいと考えております。



側面から見るとこのように、妻板の断面は見えず、正確に90度が保たれる構造になっております。



0.5ミリ下げた上辺角材の上に落とし込むように貼るのが、天井板方式のポイントです。これで、正確でより強固な車体組をすることが出来ます。



組みあがった屋根先を先頭部に貼り付けます。屋根板を屋根先内寸と妻板内寸に合わせて裁断し、天井板上部に貼り付けます。このときの接着材は、セメダインCが良いでしょう。水溶性のボンド等は避けましょう。屋根板が反ってしまいます。



淀屋橋乗り入れで、華々しく登場した京阪1900シリーズ、1810系編入の1905も含め、1900、1925、1950、1980の5車種新発売致します。特に細い4角R付きのメタルサッシの表現には神経を使い、レーザーカッターの限界まで挑戦しました。また正面の特徴あるバンパーも、縦方向にもRが容易につけられるよう、治具付きのパーツを同梱致しました。詳しくは、鉄道模型趣味・RM MODEL S とれいん各誌の8月21日発売後号も併せてご覧下さい。



片運の1900です。3両編成の基本をなしておりました。5車種ありますので好みの組み合わせを、楽しみ下さい。



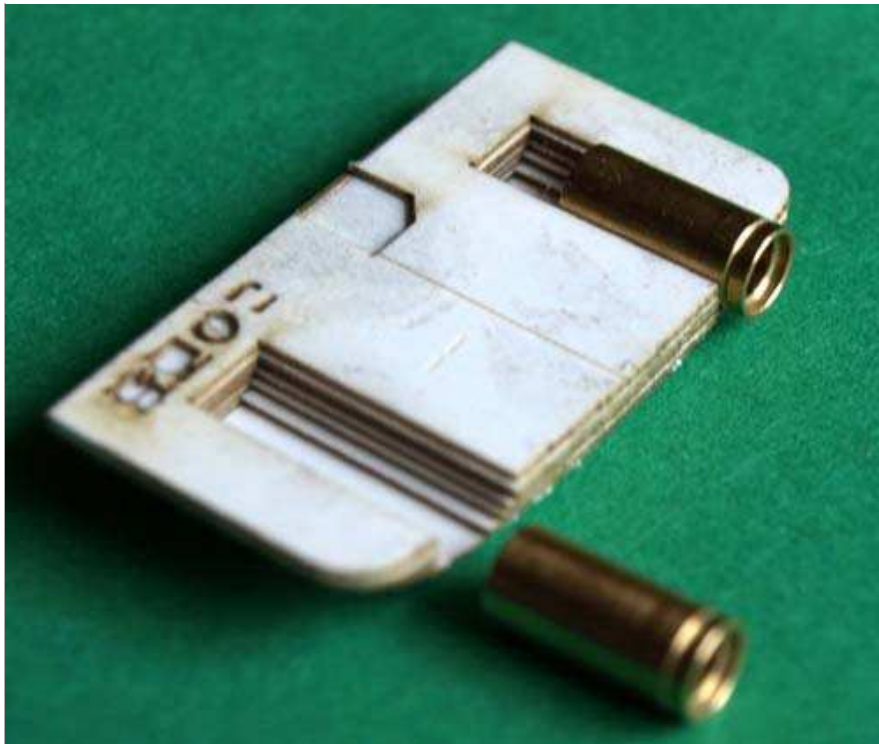
中間車の付随車です。扉の開閉方向が特異な方向になっております。妻板も左右非対称になっておりますので、写真等を参考に十分気をつけて組立てて下さい。



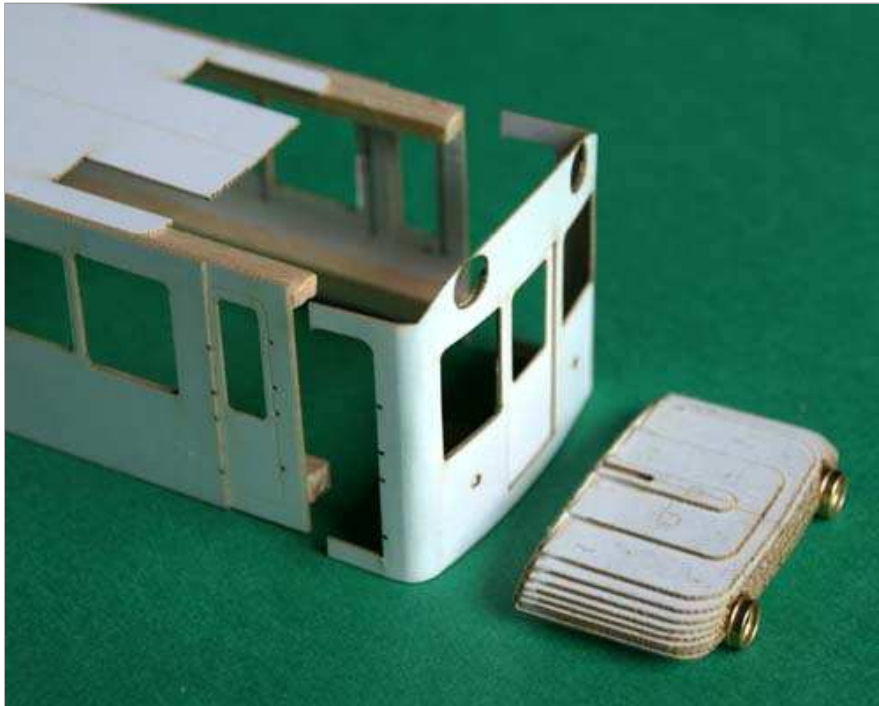
1980 中間電動車です。扉より両端がロングシートになっていました。



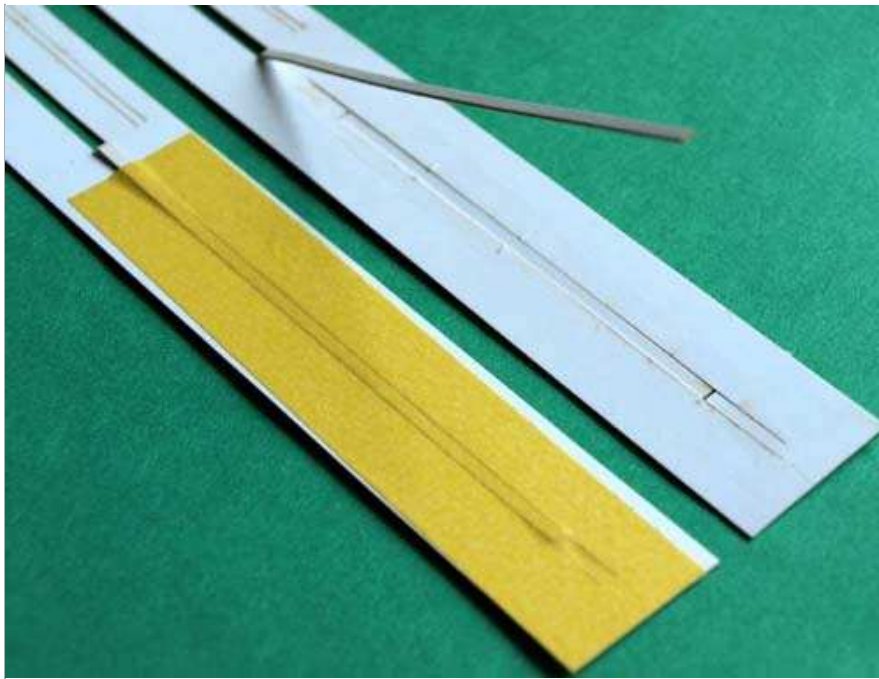
今時珍しい両運車。単独運行も楽しめます。お部屋の飾りにもなります。独特の先頭部積層屋根方式をとっておりますので、正確な位置に、しかも簡単にヘッドライトを設置することが出来ます。のぞみ工房特製のヘッドライト点灯モジュールも車体内部よりヘッドライトのパイプに挿入するだけでOKです。後は白・黒のリード線を台車に繋ぐだけ。Hタイプがピッタリです。



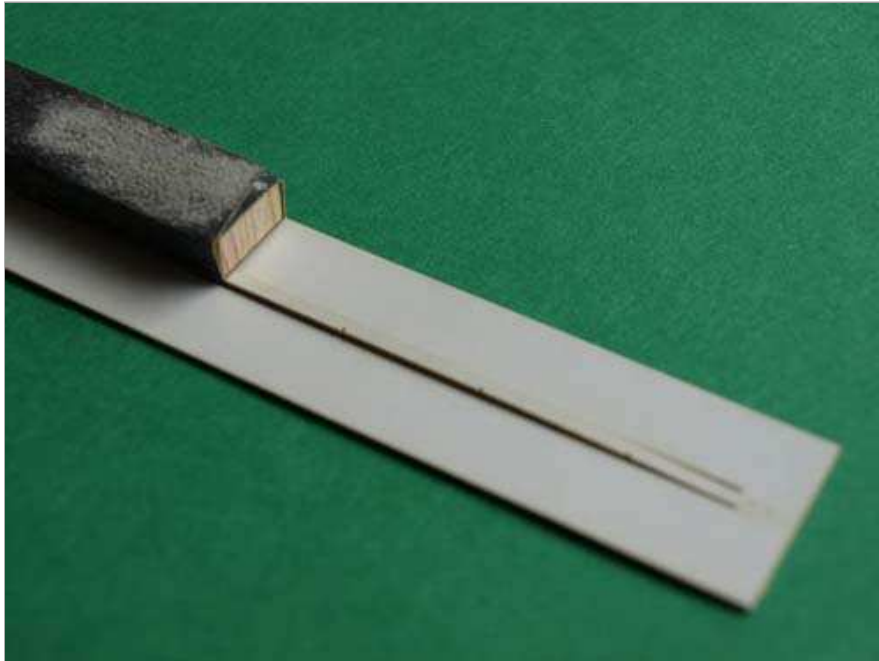
先頭部の積層屋根を裏返すと写真の様にヘッドライトを挿入するスペースが確保されていて、簡単にしかも正確にヘッドライトを設置することが出来ます。



先頭部の構造です。車体側板の上部の2×3の角材を0.5ミリ側板の上辺より下に貼ることにより、天井板を落とし込むように貼り付けることが出来、正確でしかもしっかりした車体を組む事ができます。のぞみ工房のキットは全てこの構造になっております。



写真右のように折り返した補助材で、本来バンパーになるべき帯材を、折り曲げた補助材を強く押し当て、メンディングテープ等で押し出します。これを裏返したのが次の写真です。



押し出されたバンパー部分の上下部分をサンドペーパーの小で形を整えてゆきます。4つの切断部分もマークしてありますので切断し、長手方向の形も整え、足をつけ、塗装ご車体に取り付けます。



完成したバンパー、取り付けたらペーパー製とは思えぬ立派な見栄えのするものになるでしょう。皆様方よりご希望の多くありました1810系編入の1905も発売致します。ご期待下さい。

[▲このページのTOPへ戻る](#)

2010年06月20日



お試し 細密設計ペーパー車体キット 京急230 3,990円

京急230キット組み立て説明書

本日は、のぞみ工房の製品をお買い上げいただきまして有難うございます。

<p>1 側板・妻板「アジャスト」方式</p>  <p>正確な貼り合わせが可能になりました。3枚の側板を組み合わせ、実物のイメージ通りにすれば、アジャストを活用して多少のズレを吸収できます。水性性は紙が伸びますので使わない様にします。</p>	<p>2 先頭部にカーブを付ける</p>  <p>妻板を裏返し、リシンパーパーの上に載せて10分程度の太筆等の丸筆を強く転がしてRをつけます。天井板のカーブに合わせてください。</p>	<p>3 先頭部3枚の貼り合わせ</p>  <p>先頭部3枚の貼合わせには、リヤボルト(ワッシャー専用接着剤と表裏)で張り合わせます。写真のようにリヤボルトで固定させると、キレイなカーブが得られます。</p>
<p>4 側板・妻板「キーロックナー方式」</p>  <p>妻板と側板を正確に組むのは、簡単ではありません。これを解決したのが、のぞみ工房の「キーロックナー方式」。裏、前面お互いにはたかりがあるので簡単に解決。</p>	<p>5「天井板落下」方式 0.5mm下げる</p>  <p>車体を、上から見て平行四辺形にならないように組むのも至難の技です。これを天井板落下し込み方式で解決。天井側の補助材を、0.5mm下げて貼ってください。</p>	<p>6 屋根先の組立「積層屋根先構造」</p>  <p>屋根先を削って、その電車らしさを表現するのは、大変です。パツツで穴を作っていましたので、1を裏返して爪を立て、リヤボルトで組み立て、パテを塗って、あなた好みの顔に仕上げてください。</p>
<p>7 「屋根先の接合」</p>  <p>屋根先を、車体の両端に貼り付けます。屋根板は屋根先開の寸法に切って天井板に0.5mm下げて貼り付けます。水性性は不可。屋根板は、予めリシンパーパー(別売)でデザインに従って形を整えます。メデジンテープで本体を保護しながら仕上げます。</p>	<p>8 屋根先と屋根との一体仕上げ</p>  <p>屋根先と屋根板との境目に瞬間接着剤を流しておきますと、リシンパーパーを、屋根本体と一緒に貼けたとき、きれいに仕上げられます。</p>	<p>9 「連続ヘッダー方式と雨樋の貼方」</p>  <p>ドア上部と窓上部のヘッダーを連続させる事によりヘッダーの張り付けを簡単に、さらにヘッダーの掛け継ぎをヘッダー上部に張り止し、それを各付に雨樋を簡単に貼り付け。</p>
<p>10 ランポートの取付</p>  <p>同様のモデル外観図に従って取り付けてください。先ずランポートの裏面に記した目盛り(バンド等)で長さを調整し、屋根板に取り付けます。</p>	<p>10 横梁の取り付け</p>  <p>中央部にはリシンパーパーを、両端にリシンパーパーを取り付けて下さい。床板をはめ込み、中央横梁部に空の穴を貫通させます。床板をはずして、中央横梁の裏に穴の場所を合わせてアリの補助板を、ゴム系の接着剤で貼ります。完成時の床板取付用ナットの役目を果たしますので、床板、横梁、補助板の穴がいない様に気を付けてください。</p>	<p>12 「切込み済ハンパー」の組立</p>  <p>ハンパーの刃ハースにリヤボルトをたっぷり挿込ませてアジャストを活用して貼り重ねます。よく乾燥させた後、ボンドを水で薄めたものを塗り、乾燥後Rをつけます。</p>

別売品 ● 組立て説明書の写真は、当該車種と異なる場合があります。

<p>別売品</p> <p>簡単取付LEDキット</p>  <p>ヘッド線を台車に差ぐだけでOK。9V電池を挿入しました。ハンパーキットも点灯化に対応した設計になっております。詳しくは、LED価格表をご覧ください。</p> <p>試作中の車種・ご要望の多いものより展開します</p>	<p>サンドペーパー</p>  <p>普通の紙と同じ要領でお使い頂けます。車体長に近いのが特徴</p>	<p>ドイツ製カラーパテ</p>  <p>水性で乾燥が速く、約30分で加工が可能。サフで削れて使いやすい。完全乾燥24時間。プロも家具の傷補修に使っています。模型店でお求め頂けます。</p>
 <p>http://www.nozomi-koubou.com のぞみ工房 TEL (0724) 22-8422</p>		

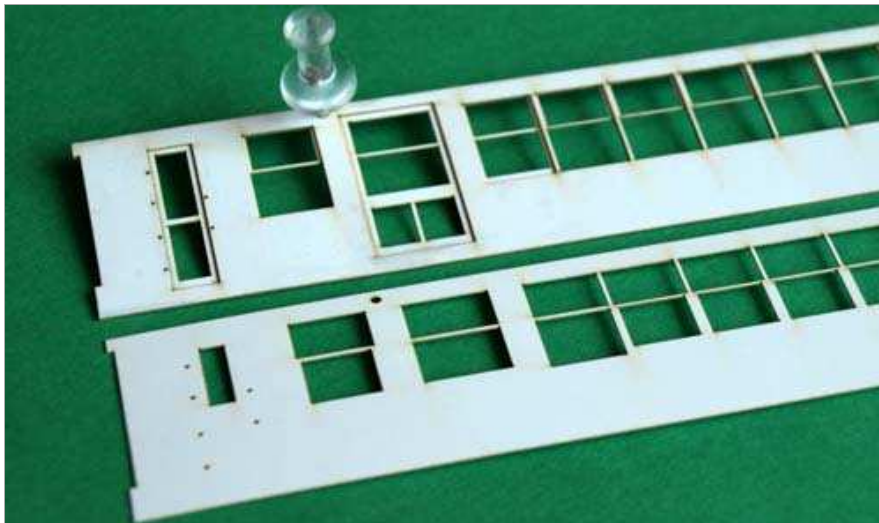
組立て説明書も写真を中心に、文章は簡潔なものとなりました。



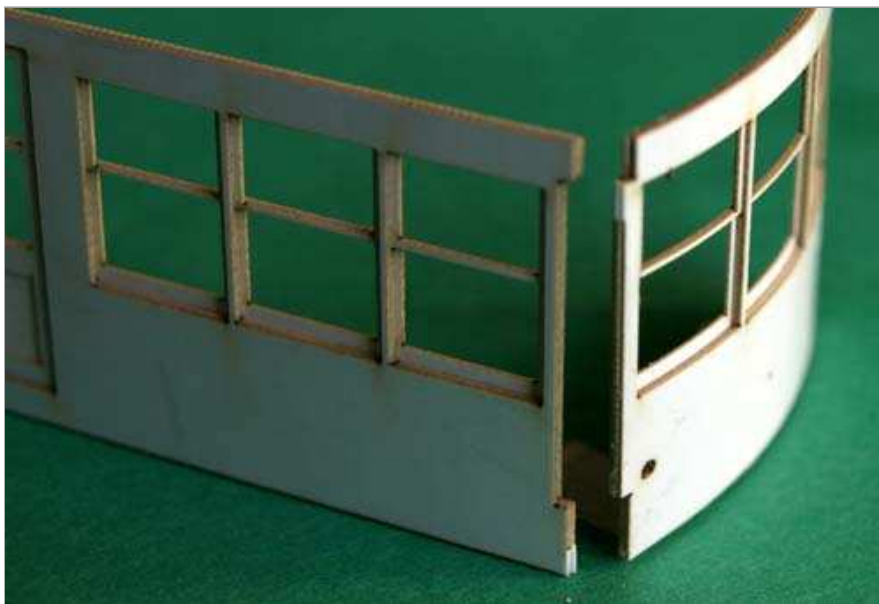
薄屋根ですが、先頭部は積層方式とし、窓の大きい軽快な印象は、忠実に再現しております。細いウィンドヘッダーも連続方式を採用し、後述の雨樋の簡単な取付のための、配慮もしております。



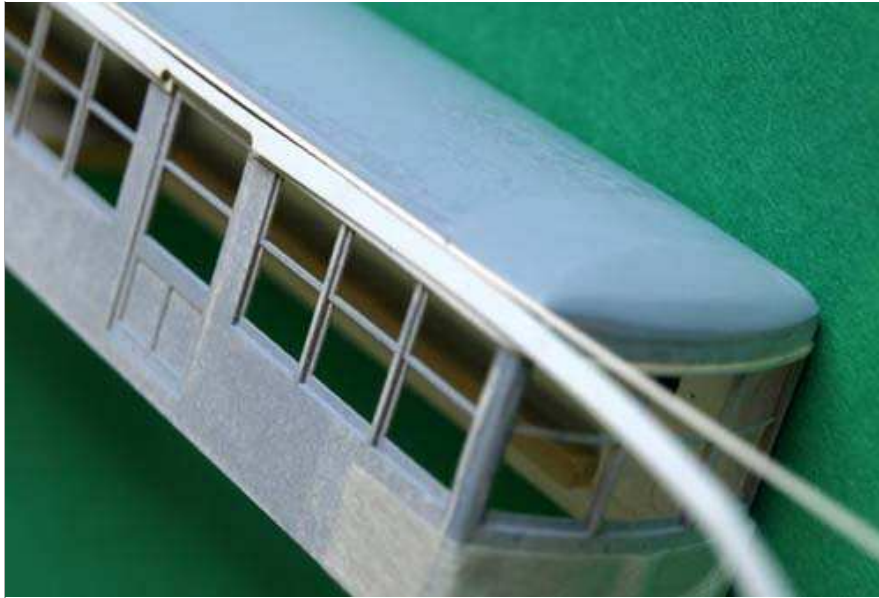
細い隅柱を簡単に表現する為に、後述のキ-ロックコーナ-方式を考案しました。



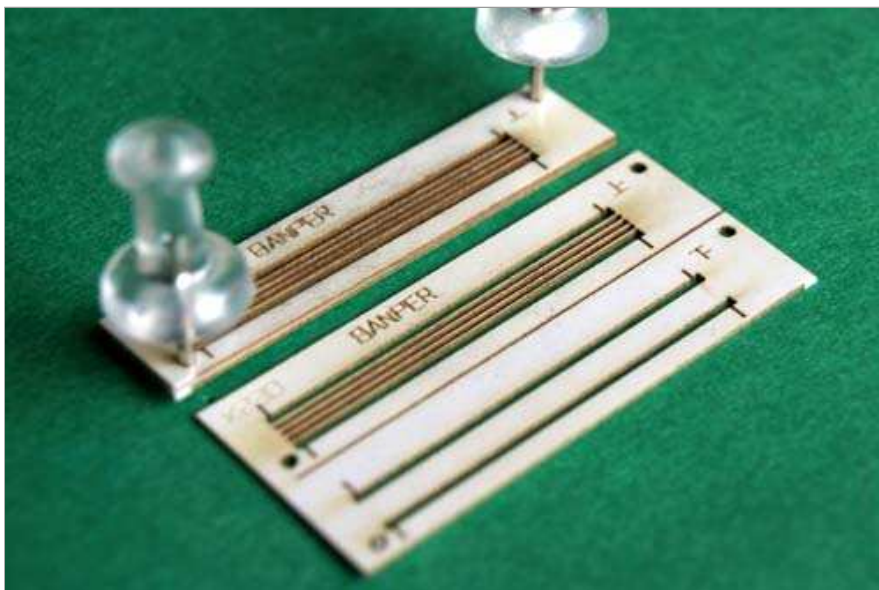
のぞみ工房製品に共通のアジャストピン方式で、外板・内貼り・内補強の貼り合せの正確化と簡単化を図っております。初心者の方にもスッキリした組み立てが簡単に出来るようになっております。



こんなに細い隅柱スッキリ仕上げるために考案しました。この方式では、側板・妻板ともに、お互いに当りがある為、縦方向に垂直を保つことが出来ます。メンディングテープで車体本体を保護し、先ず240番位のサンドペ-パ-で角を落とし、別売のドイツ製水溶性パテ(木工家具傷補修剤・模型店で求められます)で仕上げますと、スッキリした仕上げが得られます。ぜひともお試しください。



雨樋を簡単に直線状に取り付けられる様に工夫しました。連続ハググ-は窓の線に沿って貼り付ければよいので、比較的簡単に取り付けられますが、雨樋は屋根と側板との境目に取り付けるため直線状に貼るのが困難でした。これを一気に解決したのが、今回の「ハググ-抜け殻ガイド方式」です。写真のようにハググ-の抜け殻をコロコロの「バ-バ-ボンド」で仮止めし、抜け殻の上辺に沿って雨樋を貼り付けると、いとも簡単に雨樋を直線状に貼り付けることができます。妻板も同じ要領で回します。抜け殻は、勿論外しておきます。のりの後もきれいに仕上げしておきます。今後開発するのぞみ工場の製品は、すべてこの「ハググ-抜け殻ガイド方式」を取りたいと考えております。抜け殻はそのように設計してありますので、大切に保管しておいてください。



写真の手前2枚のバ-ツを、上、下の順で2枚アジャストピンを使って、タミヤセメントで貼り重ね、乾燥後、水溶性のボンドを水で少し薄めたものを流し、完全に乾燥後、ガイドに沿って切り抜き、車体先頭部カーブに沿って曲げると完成です。ポイントに接着剤の逃げ道を作っているのがキレイに仕上がるミソです。これが「バ-バ-」製と驚かれる程、立派なものが出来上がります。これもお客様のご要望にお応えした「品質を落とさず」のこだわりの一つです。

小田急1910特急先頭車・1960中間車を同時新発売致します。詳しくは、鉄道模型趣味、RM MODELS、とれいんの4月21日発売号にも紹介されておりますので、併せてご覧下さい。尚、パーツとして、お求めにくいヘッドライト及びベンチレーターを同梱致しました。ヘッドライトの取付穴は、先頭部積層屋根に組み込まれておりますので、正確な位置に簡単に取り付けられるよう配慮しております。



積層屋根先構造の採用により、あの小田急の顔を、容易に再現することが出来ます。天井板方式による、組み立て易さもご体感下さい。



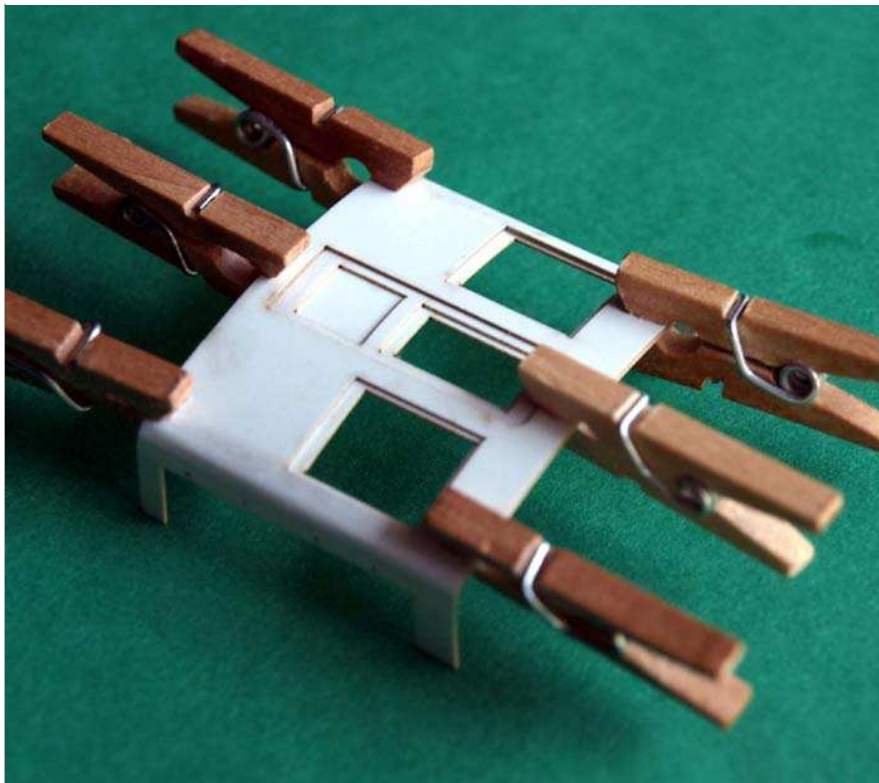
正確、簡単な貼り合わせを可能にした、「アジャストピン方式」簡単に貼れる「連続ヘッダー方式」もご体感下さい。



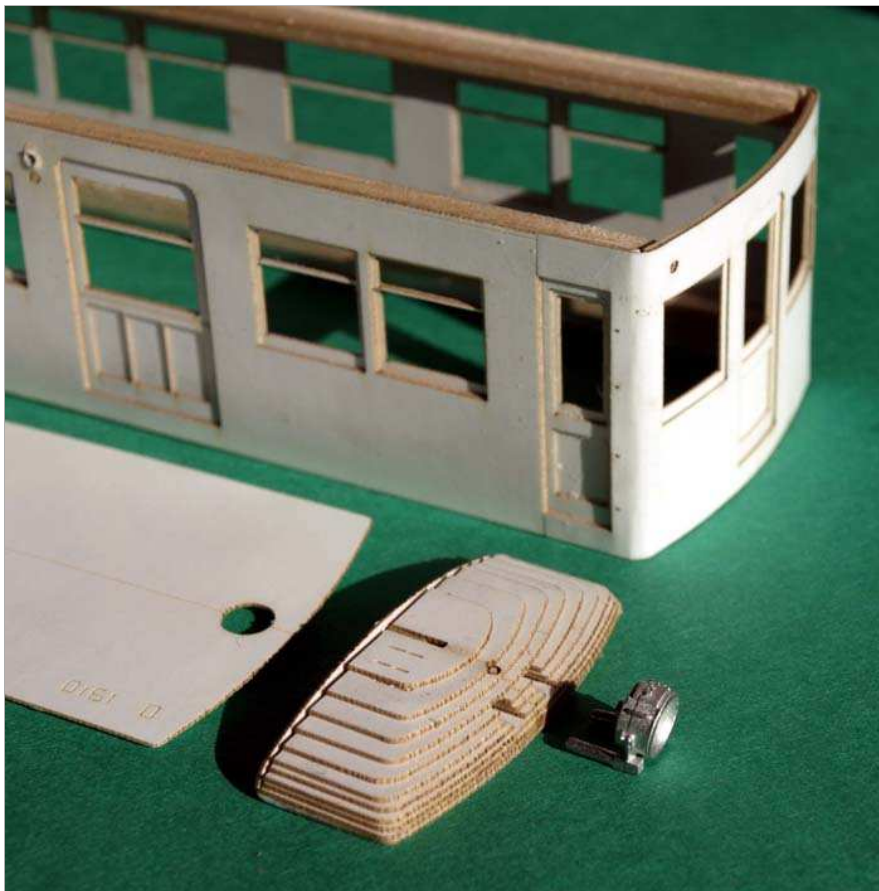
旧国台枠活用のため、実物の車体幅が2800ミリ
になっております。屋根板幅調整にご注意下さい。



のぞみ工房ではお馴染みの積層屋根先方式ですが、ヘッドライトの取付構造に合わせて屋根先を加工してあります。パテ仕上げの段階で穴位置を確認しながら進められる事をお勧めします。



タミヤセメント(プラスチックモデル専用)と、25ミリの超ミニクリップの組み合わせ、ペーパーキットの組み立てを効率良く進めるのに大変便利です。超ミニクリップは、100円ショップ「キャンドゥ」で求める事ができます。在庫の無いお店が多いようですが、親切に取り寄せてくれます。のぞみ工房の製品では、阪急デロ10シリーズに5個同梱されています。小さいのがRのある部分工作には何よりです。



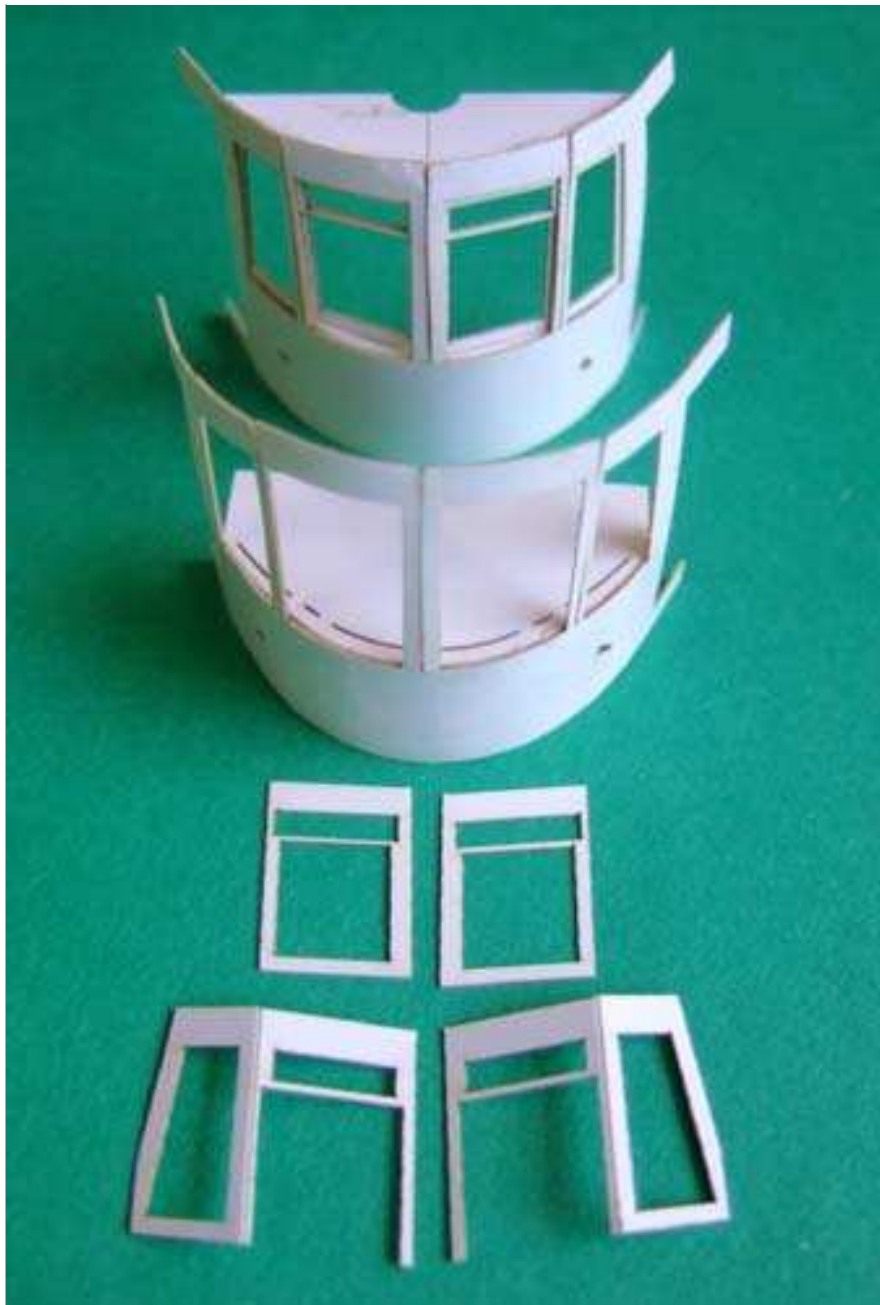
「天井板方式のメリット」ご体験済の方には蛇足になり恐縮ですが、初めてのぞみ工房のキットをお求め頂く方、金属キットからの変更組の方も多くとお聞きしております。側板屋根側に貼る桧棒を、0.5ミリ下げて貼るだけで、



のぞみ工房が開発した42車種中、人気NO.1が、この京阪1000です。実物の空気取り入れ口が、どのような形になっていたかを想像しながらデザインしました。正面のカーブをキレイに仕上げたから、ファンを差し込む構造になっております。



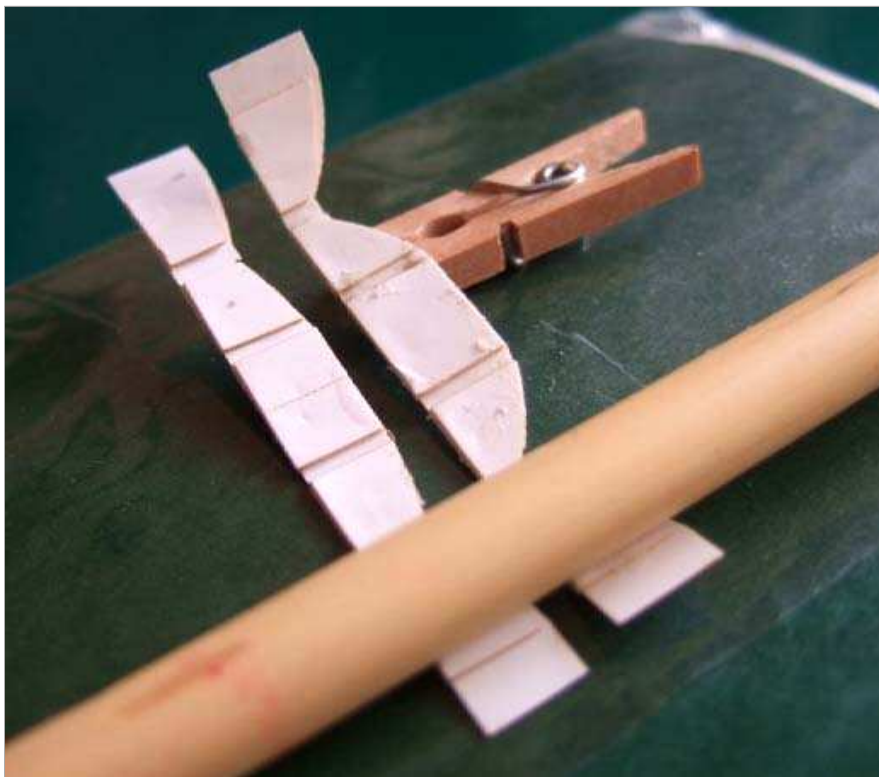
京阪1500 特製のベンチレーターを同梱しております。屋根の深い車両ですが、屋根と車体の塗り分け境界線を変更することによって、それらしく表現しております。



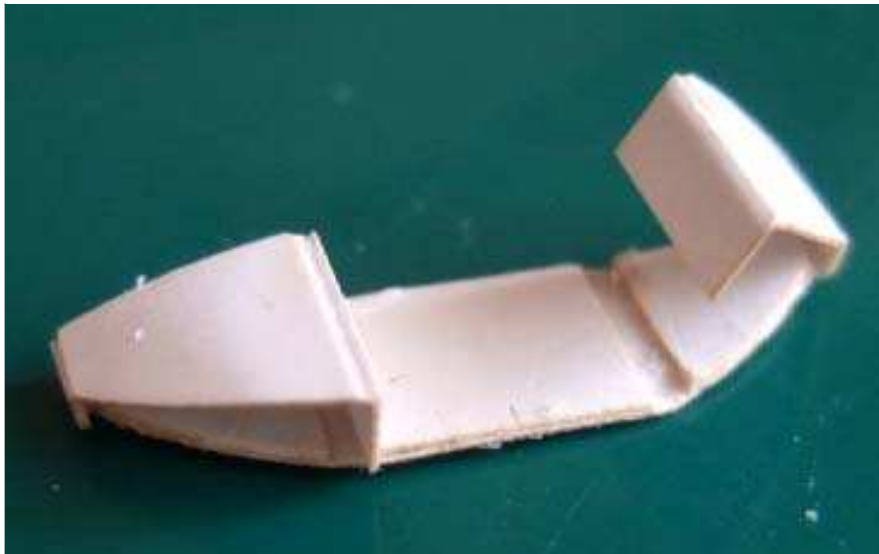
先頭部はこのような構造になっておりますが、すでに組み立て済のものが同梱されております。正面のきついカーブと、平面窓ガラスとの絶妙な組み合わせは、のぞみ工房自信作の一つです。正面窓枠下辺に、三日月型のスペースが確保されております。



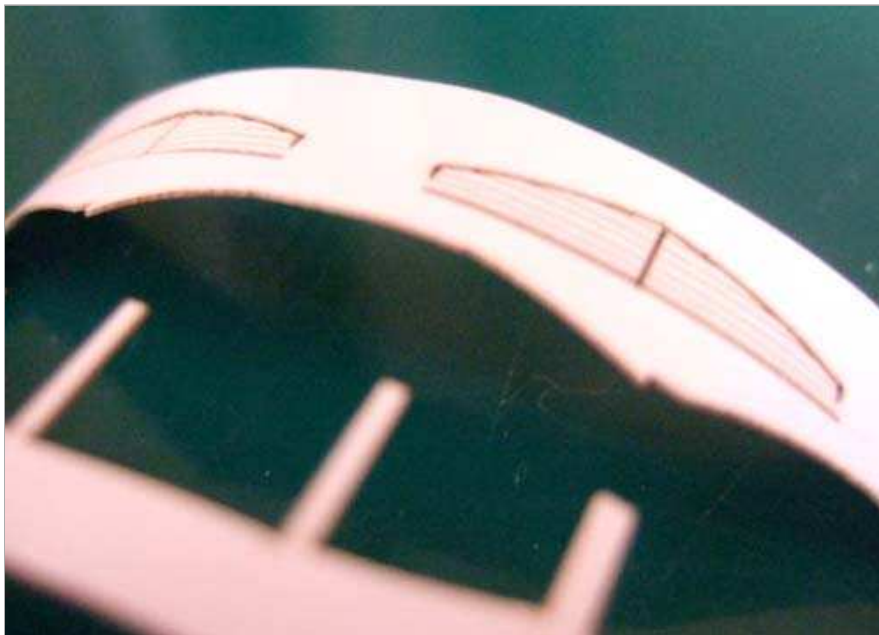
ファンは、このような紙片から、組み立てていきます。まず二つ折りにします。



ファンの上側には、Rをつけておきます。



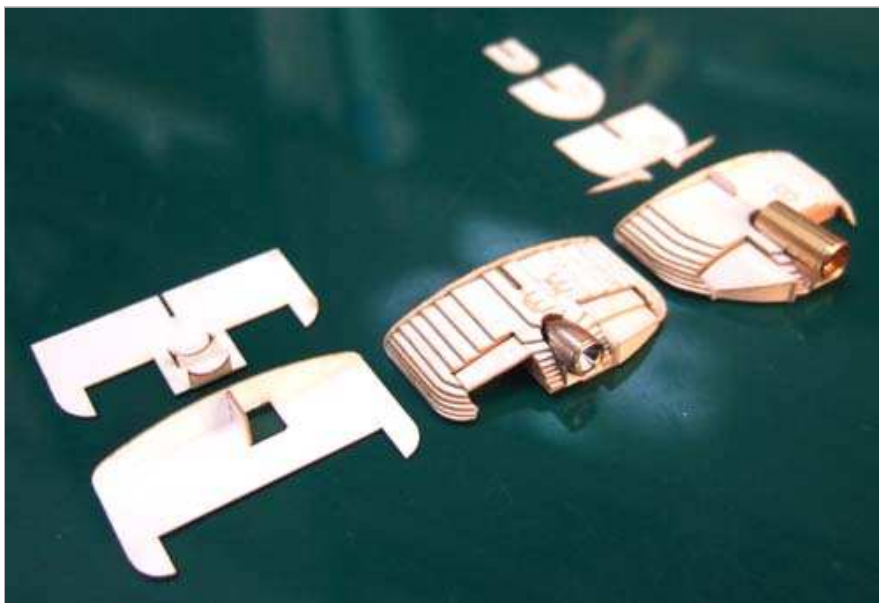
ピンセットで曲げながら、形を整えてゆきます。



正面の空気取り入れ口にもカーブをつけておき、ファン本体に貼り付けます。



積層屋根を積み重ねてゆきます。点灯式化される場合は、スパイクモデルの埋め込み型流線型ヘッドライトが類似品としてお勧めです。



積層屋根を組み立てていきます。組み立て後車体に貼り付け、先頭部を仕上げてから、ファン本体を差し込みますと、スッキリきれいにまとめることができます。

ヘッドライトを点灯式化される場合は、のぞみ工房のマイクロモジュールタイプが適合品です。リード線を台車に繋ぐだけの簡単さです。



クハ86 300番台新発売

正面2枚窓に業界初のHゴム・ガラスはめ込み方式を採用しました。工作し易いように、Hゴム取付治具も同梱しております。



室内の間仕切りを用意しました。ヘッドライト・テールライトも車体完成後、車体内部より簡単に取り付けられる構造になっております。先頭部は組み立て済みをお届け。普通の車両と同じ手軽さで、流線型車両をお楽しみ頂けます。



モハ80 300番台 室内の間仕切りを用意しております。窓枠は、切り取ったものを、もとへ戻す構造になっておりますので、キチントはめ込むことができます。



サロ85 300番台
下降式窓の為、ほかの車両と窓の高さが異なります。



サハ87 300番台
モハ80と殆ど同じですが、トイレ付きの為、一部外観が異なります。

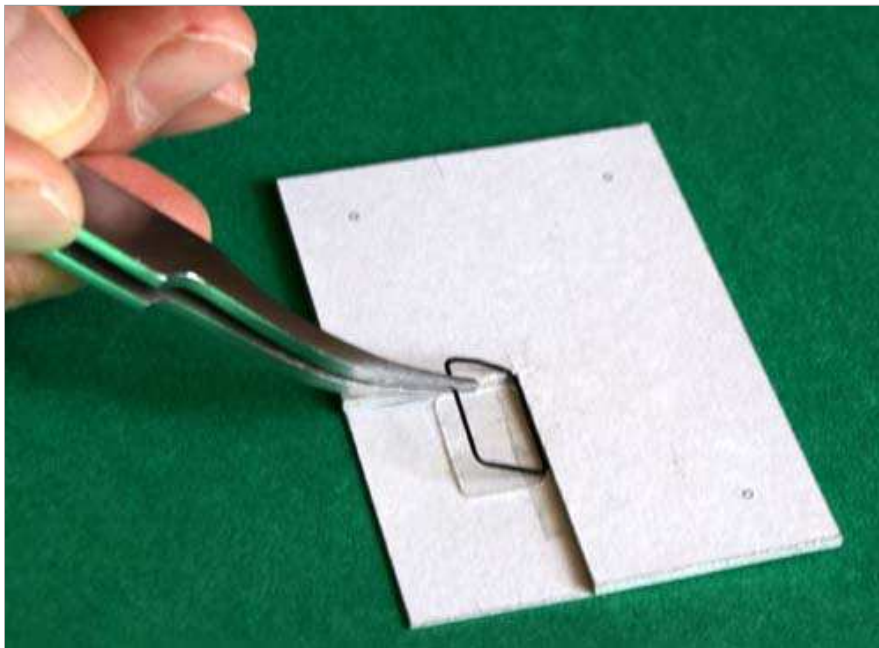


組み立て済み先頭部同梱
写真のような先頭部が同梱されています。



運行窓削りすぎ防止ガイド同梱

パテ仕上げの際、運行窓の突起が少ないため、うっかり運行窓の廻りを削り落としてしまう場合があります。それを防止する為写真のようなガイドを用意しました。運行番号も4種よういしましたので、お楽しみ下さい。



Hゴム取付治具を同梱しました

写真のように、ガラスを治具に仮止めします(治具にはがすことが出来る接着剤を塗布してあります)。窓枠の裏面に接着剤を塗布し、ピンセットで加え、2面の壁にあててガラスに貼り付けます。Hゴムの着いたガラスを塗装済の車体にはめ込むと完成です。

尚、ガラス(エンビ)は、ボキボキ折れるように筋をつけてありますので、線に沿って折ってください。練習用に予

備を入れてありますのでご活用下さい。



ヘッドライト・テールライトの配線は超簡単

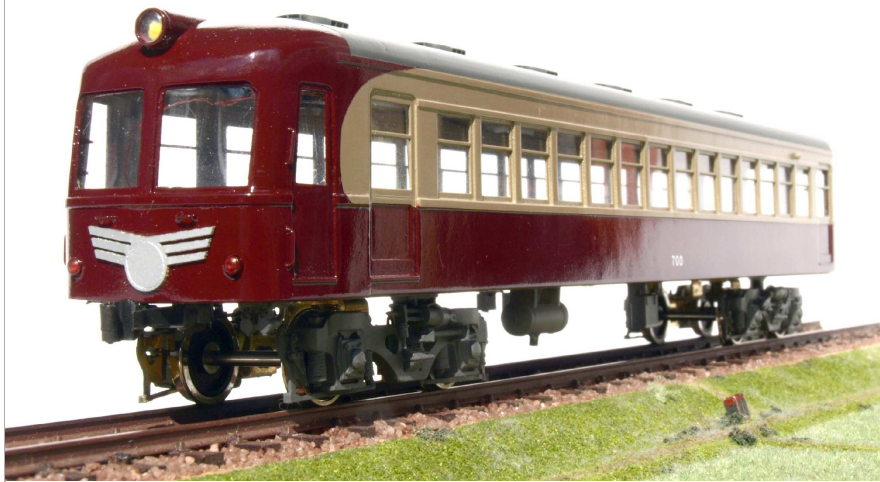
先頭部積層屋根には、点灯式化できるように設計してありますので、車体内部より差し込むだけでOKです。特にテールライトは0.6×1.0ミリのマイクロLEDを用意しておりますので、従来のような光導材の必要もありません。



「ねこひげ」の愛称で親しまれたあの顔、積層屋根構造で、平面4つのR、立面3つのRを組み合わせて表現させて頂きました。のぞみ工房の自信作の1つです。先頭部は、組み立て済みで、キットに同梱されています。全国主要模型店様でご確認頂ければ幸いです。



東武 700 アジャストピンを活用して正確に組み立てられます



東武 5700



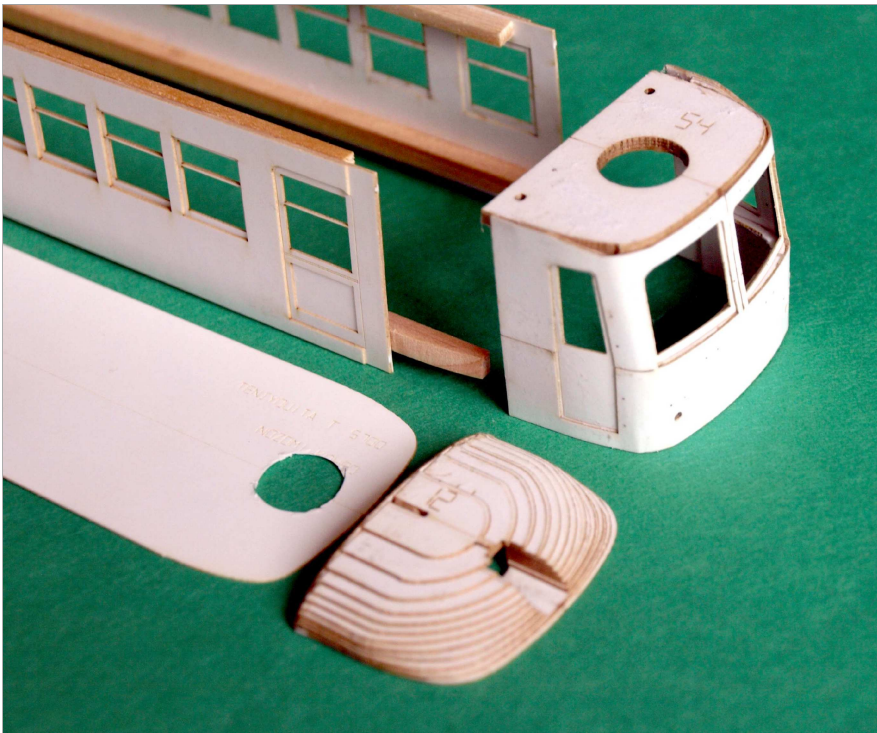
東武 5710



東武 710



東武 710



組み立て済み先頭部の構成

普通の車両と同じ要領で組み立てることができます。



既発売流電カモハ52、飯田線タイプと同じく、組み立て済み先頭部を同梱しました。このシリーズは、窓枠が別色となっている為、先頭部は、ご購入頂いたお客様と一緒に組み立てて行く気持ちで細心の注意をはらってみてください。最も美しかった登場時の姿にまとめてあります。



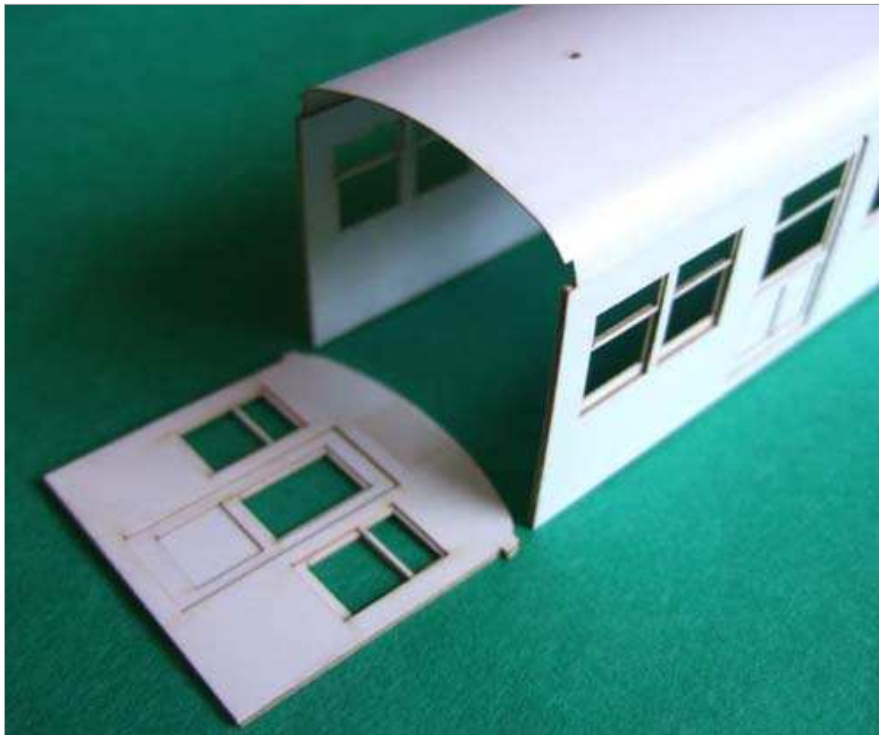
別塗装した窓枠を完成後にはめ込みます。切り抜いた所へ戻すようにはめ込む仕組みになっておりますので、きれいにはめ込む事が出来るでしょう。この場合の接着には塗料を溶かさない木工ボンド等がお勧めです。



サハ48 模型の飛行機の翼のような屋根芯で固めたペーパーボール構造になっております。「金属キツに負けないものを」作って欲しいとのご希望を受けて考え出しました。屋根Rの設計は自由自在。「屋根板を削りだしたの昔のこと」へと更なる試作を進めております。ご期待下さい。



サロハ66 組み立てやすくする為、連結面にも工夫がしてあります。写真5でご案内します。



車体本体と連結面との組み立ては写真のように鍵方に組むような構造になっております。側板下部の3×3の角材と相まって妻板貼り合わせのあたりを構成しております。



スカートを組み立てる
積層方式を取りました。アジャストピンを活用して組んでゆきます。後で切り捨てる部分を配慮しながらくんで行きます。



スカートくみ上げるとこのような形になります。610のカーブを通す為、ぎりぎりの寸法まで挑戦しました。それでも台車を加工する必要性は残りました。



組み立て済み先頭部が同梱されていますので普通の車両と同じ要領で組み立てる事ができます。先頭部の垂れ下がり防止するため、車体側板下部の3×3の角材を先頭部まで伸ばし、カッチリ組み立てましょう。



ヘッドライト・テールライトの点灯式化

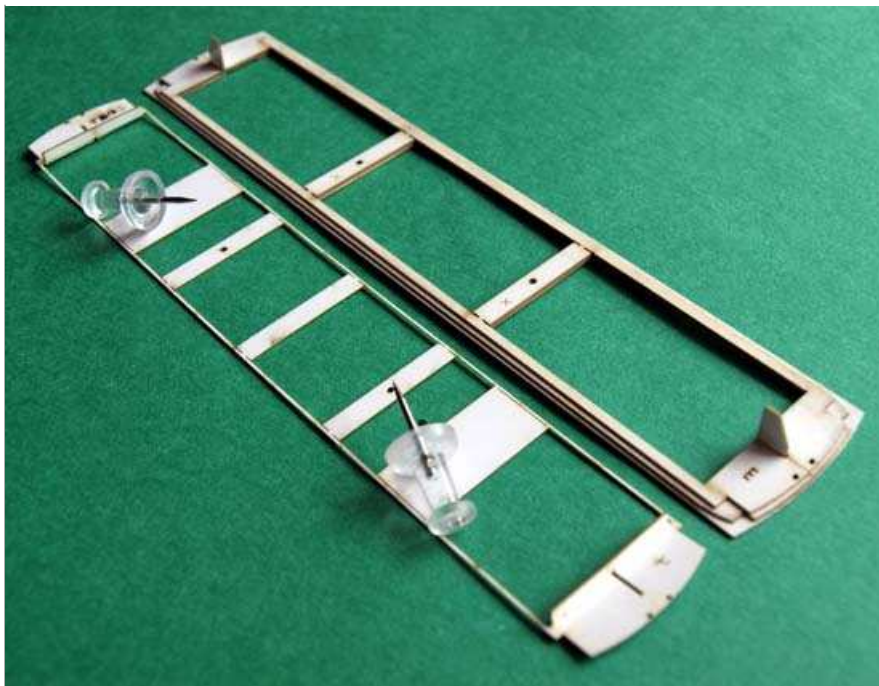
2ミリのパイプの中に挿入できるLEDを捜し求め、今回のLED点灯モジュールを開発することが出来ました。これも昨年の展示会でのお客様のご要望にお応えしたものでした。ヘッドライトも積層屋根の構造にも切り込み、素直に進行方向に平行になるように、又、光が漏れないように特注のパイプを用意しました。もともとは、モハ52要に開発したLED点灯モジュールでしたが、お客様のご要望をお聞きしているうちに9種に拡がり、これでも足りない場合は、特注としてお受けいたします。具体例として、市電用に、ヘッドライト1、テールライト1の両運タイプのご注文を頂きました。品切れ続きでご迷惑をお掛けしておりますこと、お詫び致します。



各種展示会で、「ペーパーキットのダブルフの構造は？ 組み立て方は？ 難しくないか？」等のご質問を沢山頂きました。或いは、「プラモデル並みの簡単さで組めました」とのうれしいお言葉も頂きました。そこで、今回は、皆様方のご関心の高い「ダブルフの組み立て方を」中心に解説させていただきます。



一発貼り付けのランボードの足
ランボードの足は、井桁状にきつてありますので、一発で貼り付けることができます。しかも、足の抜け殻を左右に分離し、再度重ね合わせる事によって、スプレ-のりが着いては困る部分をか-する工夫までしてあります。一発貼り付け後、不要な部分をカットします。



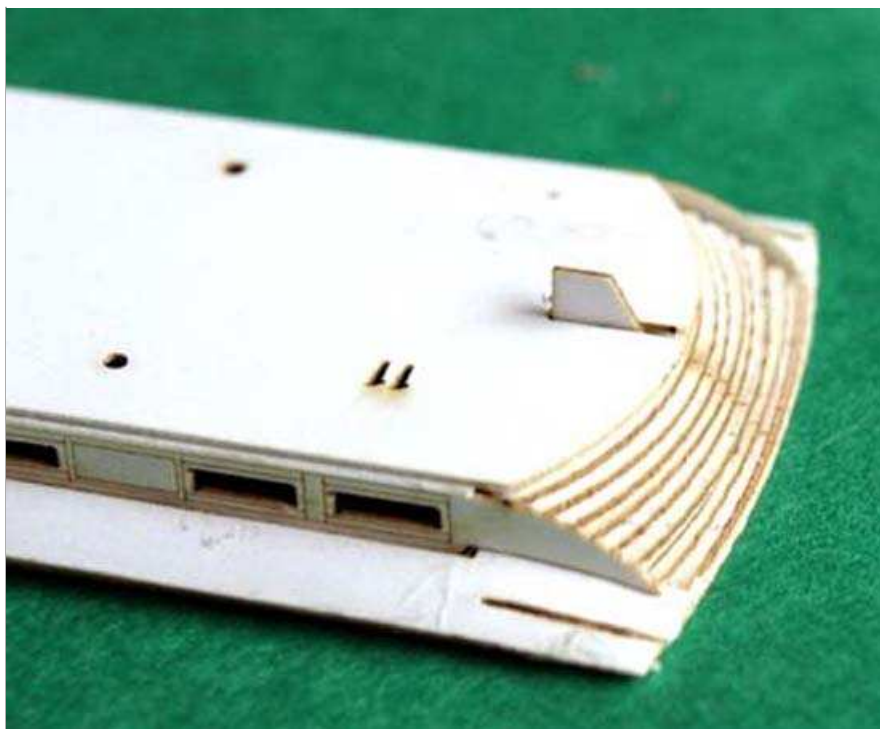
ダブルベースの組み立て

アジャストピンと爪の活用によって、何方でも、正確、且つ簡単に組み立てられるように各種工夫がしてあります。細いパーツを正確に貼り付ける為、不要な補助紙片が着いてありますが、貼り終わった時点で切り捨てます。不要部分には、×の印がつけてあります。これらの貼り付けには、プラスチック専用のタヤセメントがお勧めです。はみ出したタヤセメントはアセトン(ホームセンター等で求められる洗浄剤)で固形物としてキレイに拭い去る事ができます。



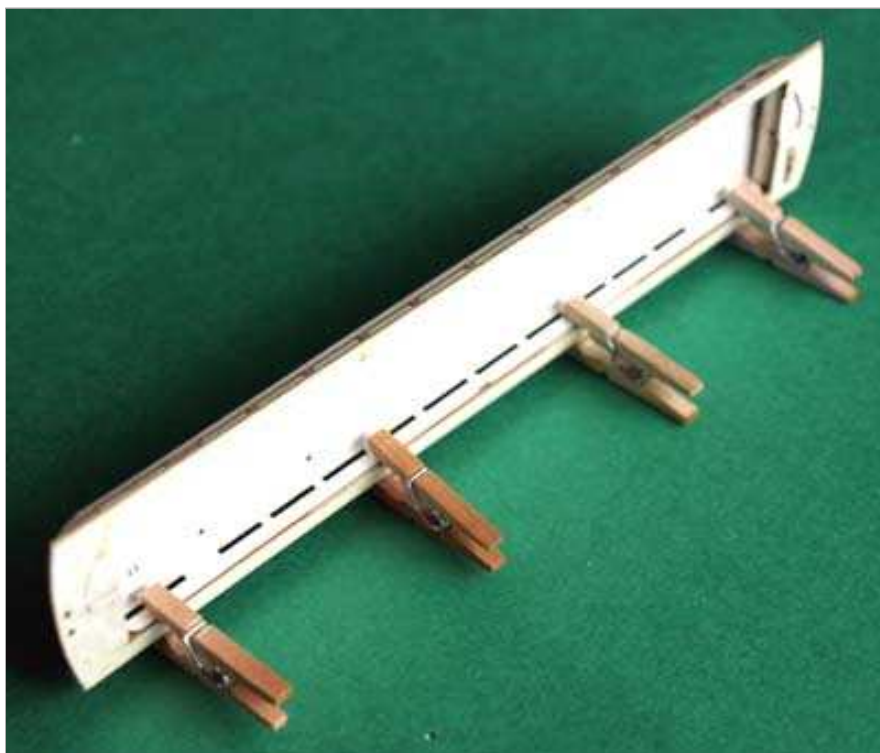
小屋根の貼り付け

屋根先端部には、積層屋根パーツを貼り重ねて行きます。やはり、タヤセメントがお勧めです。理由はのりの厚みを感じないと、紙を硬してくれるからです。小屋根の貼り付けには、セグアイC等がお勧めです。小屋根の積層部分は240番くらいのサンドペーパーで軽く角を取って置きましょう。



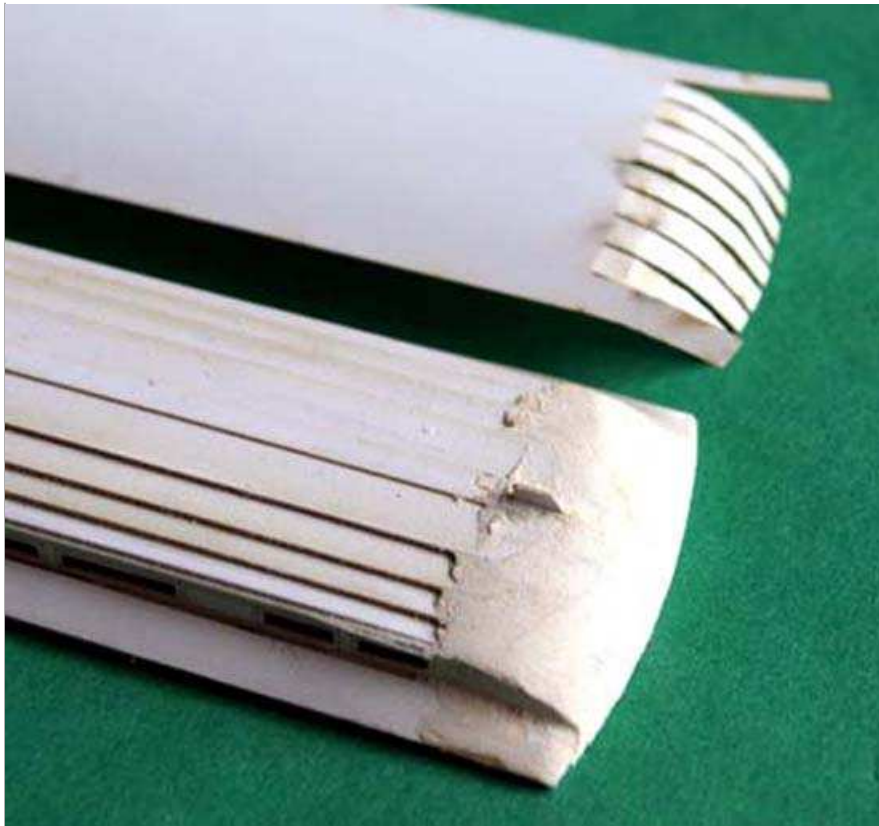
明かり窓の取り付け

これも最初に立てた爪の活用で、正確な位置に簡単、前後左右の狂い無くセッティングすることができます。プラモデルを組む感覚でといわれる所以です。



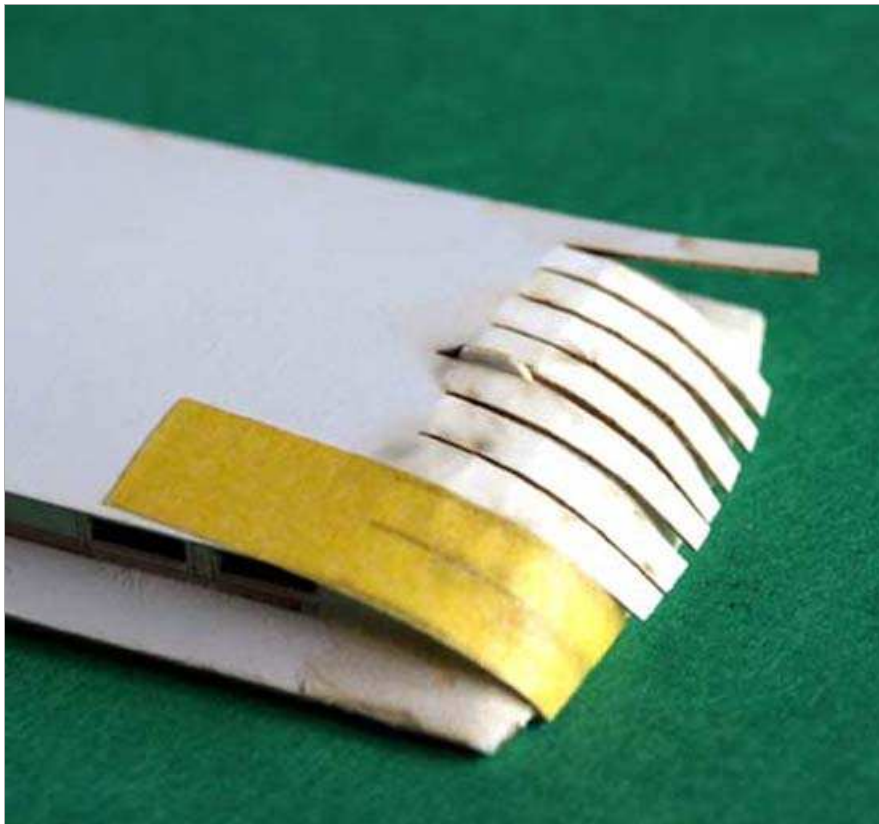
明かり窓部分を固定する

同梱のマイクロクリップで仮止めし、瞬間接着剤を流して行けば、簡単に固定できます。



大屋根を貼る準備をします

大屋根をティッシュペーパーの上に載せ、10ミリ径くらいの丸棒を強く転がしますと、きれいな屋根Rを着けることができます。大屋根がA-の両端は写真のように両端を残して曲げて置きましょう。更に明かり窓の屋根部分に積層し、ここでも積層屋根部分の肩は落として置きましょう。大屋根の貼り付けには、セグアイソC等がお勧めです。大屋根を貼るまえに小屋根の先端部は入念に仕上げておきましょう。大屋根を貼り付けると触れなくなります。



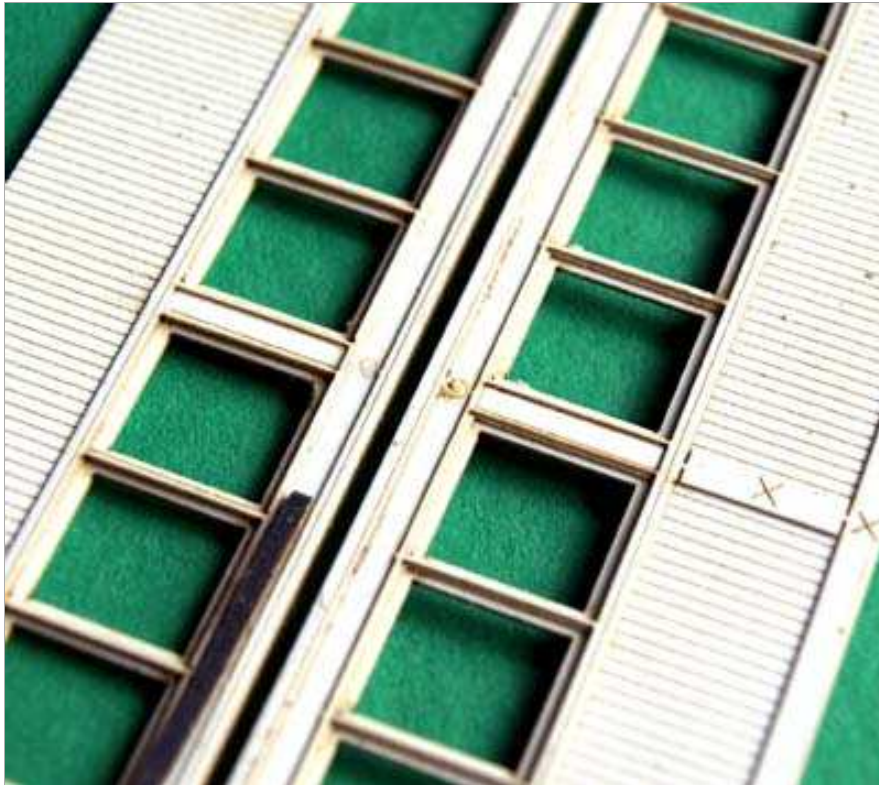
大屋根が'-を固定して、屋根を仕上げます

大屋根の貼り付けにはセグメントがお勧めです

ここでも、最初に立てた爪にはめ込むようにはりつけますと、前後左右に狂いなく正確に貼り付けることができます。

両端に残した突起部に、6ミリ幅のメンディングテープを貼り付け、屋根裏まで回して行きますと、進行方向に平行にキチント貼り付けることができます。

以上で難しそうに見えたダブルーフの屋根の組み立てが、プラモデルを組む感覚で進める事ができる所以をご理解頂けましたでしょうか。



車体一般に少し触れておきますと木造車の木造車らしさを表現する為に、側板は4枚重ねとしました。細い柱の中央に更に細い飾りの柱を貼る作業も、アジャストピンと補助紙片の活用で難なくこなせるように工夫してあります。全国主要模型店様に在庫して頂いておりますので確認頂ければ幸いです。